

# 逗子の水辺の生きものたち

(河川・磯の市民観察会報告書)



ずしし環境会議 まちなみと緑の創造部会

### 表紙の写真

アブラハヤ(磯貝撮影)	ホトケドジョウ(磯貝撮影)
アユの群れ(小林撮影)	ボラの群れ(小林撮影)
アカエイ(鳥はアオサギ)(小林撮影)	アカテガニ(磯貝撮影)
イトマキヒトデ(大谷撮影)	アオウミウシ(大谷撮影)

## はじめに

逗子市はその環境基本条例で「青い海と緑豊かな平和都市」を目指し、健全で恵み豊かな環境を世代を超えて引き継ぎ、市民の健康で文化的な生活を確保すること。また、生物多様性を確保するため、山林、河川、海岸等における多様な自然環境を体系的に保全するとしている。

2001年に逗子市環境基本計画に基づき活動を開始した“ずしし環境会議まちなみと緑の創造部会”（以下部会）は、発足以来、逗子の自然環境の保全、子どもたちへの環境学習など各種の活動を実施した。その活動の一環として次世代を担う子どもたちを対象に「逗子の身近な自然にはどんな生きものたちが暮らしているか」、「川や海などの水辺の自然に親しめる空間づくりを推進する」をテーマとして魚・植物・昆虫など、各種の観察会を逗子市役所の協力を得て定期的に実践している。

各種の観察会のうち、魚については2003年から田越川水系の中流域で「田越川さかな観察会」（当初は「田越川ウオッチング」と称した）、翌2004年からは逗子海岸西側の岩浜海岸（通称葛ヶ浜）で「磯の観察会」を、2006年からは田越川河口域で「田越川河口のさかな観察会」を毎年定期的で開催し、現在も継続中である。

これらの観察会を開催して14年以上が経過したが、その間に多くの市民が参加し、観察された生きものを記録してきた。

また、多くの研究者が逗子市内の自然について調査を行い、研究成果を報告している。

今般これらの観察会の結果と部員が日頃観察した目視調査の資料をまとめ、さらに既往報告の研究成果を併せ集計したところ多少の知見を得たので報告する。

# 目 次

## はじめに

観察会の場所	2
田越川中流域	3
田越川河口域	4
岩浜海岸(磯)	4

観察・採集方法	4
---------	---

## 観察の結果

田越川中流域	5
田越川河口域	11
岩浜海岸(磯)	13

## 総括

田越川水系の観察会(目視観察含む)で確認した魚類 61 種について	16
田越川水系に関する既往報告で確認された魚類 84 種について	17
田越川水系全体で確認した魚類 105 種について	17
岩浜海岸(磯)	28

おわりに	29
------	----

要約	31
----	----

謝辞	32
----	----

文献	33
----	----

## 参考資料

まちなみと緑の創造部会の実践活動の趣旨(資-1)	37
まちなみと緑の創造部会の活動年表(河川・磯関係)(資-2)	39

## 観察会の場所

各観察会を実施した主な場所は図1に、開催状況を表1に示した。

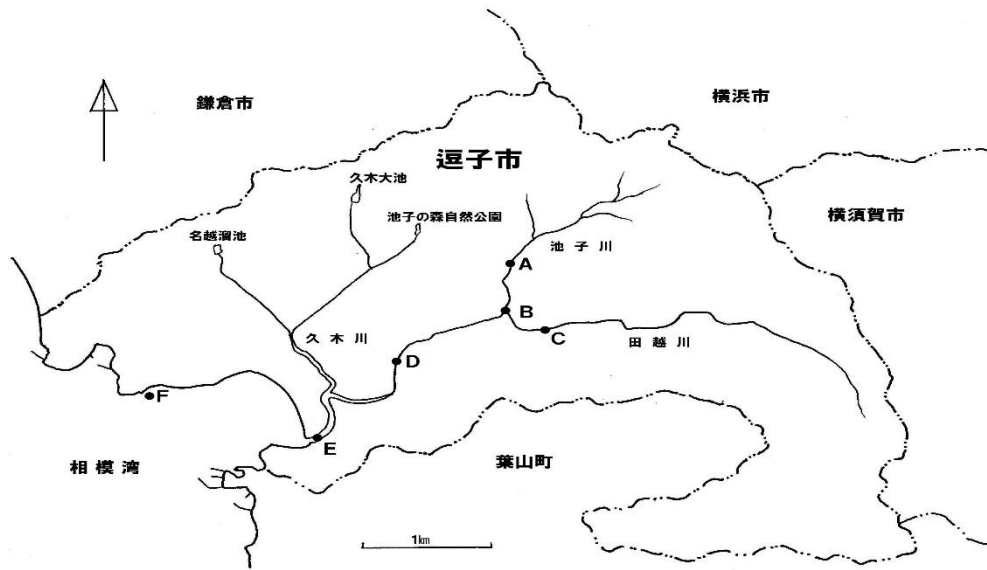


図1 観察会を開催した主な場所

- A、池子川米軍ゲート前 B、池子川合流点 C、丸山病院裏  
D、下田橋親水施設 E、田越川河口 F、磯

表1. 観察会開催状況一覧表

開催年月日	観察会の名称	開催場所	参加人数	スタッフ	講師	合計
2003年	田越川ウオッチング	B *				
2004年6月5日	磯の観察会	F				
2005年10月22日	第一回田越川さかな調査	C				
2006年1月29日	田越川さかな調査	A				
2006年5月21日	田越川観察会	B				
2006年6月24日	磯の観察会	F				
2006年10月21日	田越川さかな観察会	E				
2007年6月2日	磯の観察会	F				
2007年8月26日	田越川河口「さかな観察会」	E				
2008年5月24日	磯の観察会	F				
2008年6月8日	田越川中流「さかな観察会」	B				
2008年10月13日	田越川中流「さかな観察会」	B				
2009年6月27日	田越川中流「さかな観察会」	A	40	7	2	49
2009年8月23日	田越川河口「さかな観察会」	E				
2009年10月18日	田越川中流「さかな観察会」	B				
2010年8月29日	田越川河口「さかな観察会」	E				
2010年10月24日	田越川中流「さかな観察会」	B	33	8	2	43
2011年5月21日	田越川中流「さかな観察会」	B	17	9	1	27
2011年6月5日	磯の観察会	F	33	9	2	44
2011年8月28日	田越川河口「さかな観察会」	E	39	9	2	50
2012年6月3日	磯の観察会	F	35	14	2	51
2012年7月22日	田越川中流「さかな観察会」	D	23	10	1	34
2012年8月19日	田越川河口「さかな観察会」	E	26	7	2	35
2013年6月9日	磯の観察会	F	27	13	1	41
2013年7月20日	田越川中流「さかな観察会」	D	39	9	1	49
2013年8月24日	田越川河口「さかな観察会」	E	21	6	2	29
2014年6月15日	磯の観察会	F	27	9	1	37
2014年7月19日	田越川中流「さかな観察会」	B	32	9	1	42
2014年8月23日	田越川河口「さかな観察会」	E	16	9	2	27
2015年5月17日	磯の観察会	F	43	11	1	55
2016年7月3日	磯の観察会	F	26	9	1	36
2016年8月27日	田越川中流「さかな観察会」	B	23	8	1	32
		参加人数合計	500	156	25	681
		平均参加人数	29.4人	9.2人	1.5人	40.1人

\*アルファベットは図1の開催場所を示す

## 1 田越川中流域

田越川は逗子市の東部に源を発し、久木川と池子川の2支流を有し、市内中央を横断、相模湾に河口を開いた二級河川である。流長は約6km、感潮域は河口から約2.36km上流の池子川合流付近まで及んでいる（神奈川県2016）。

観察会の場所は子どもたちの安全を考慮し、河口から約1.8kmの下田橋親水施設、この地点から500m上流の池子川合流地点、さらに上流の丸山病院裏、池子川米軍ゲート前の4か所とした。

中流域の観察会は2003年を初めとし2005年からは定期的で開催した。開催時期は1月、8月が各1回、5月、6月が各2回、7月が3回、10月に4回、延べ13回開催した。詳細を表1、2、実施状況を図2に示した。



池子川米軍ゲート前



池子川合流点



下田橋親水施設

図2 田越川中流域の観察会の実施状況

## 2 田越川河口域

田越川は、逗子海岸東側の逗子湾に流入、その先は相模湾へと広がる。観察会は河口から約 100m 上流、国道 134 号線渚橋直下の干潮時に干潟が露出する場所で行った。河口域は川幅が約 60m、岸部はコンクリートブロックと岩の 2 面護岸で構築されている。

観察会は主に大潮の日を選び、初年度の 2006 年は 10 月であったが、2007 年から 2014 年にかけてはすべて 8 月に実施し、延べ 8 回開催した。詳細は表 1、5、実施状況を図 3 に示した。

## 3 岩浜海岸(磯)

観察会は逗子湾の西側海岸、国道 134 号線直下から不如帰碑、大崎そして小坪にかけて広がる葛ヶ浜と呼ぶ岩浜海岸(磯)で開催した。この岩浜は相模湾から波浪を直接受ける外磯に面し、基盤は逗子層砂泥岩盤で断層が多く、岩棚やくぼみが形成されている。干潮時には大小さまざまなタイドプールが出現し、磯の観察には最適な地形である。2004 年から 5~7 月の大潮の干潮時に実施し、延べ 10 回開催した。詳細は表 1、6、実施状況を図 4 に示した。



図 3 河口域の観察会実施状況



図 4 磯の観察会実施状況

### 観察・採集方法

採集には、当部会所有のタモ網(開口 400×400 mm、目合 4 mm)と参加者持参の市販のタモ網を使用した。また、中流および河口域では講師らによって投網が補足的に使用された。各観察会の参加者は平均 30 名であった。

観察会で採集(当日観察した種も含む)したものは、種の同定、解説を行ない、写真撮影後に放流した。記録は同定した出現種の記載のみで量的把握は行っていない。また、未同定種および改良種は種の員数に含めた。

目視調査は、田越川水系に沿う遊歩道から適時に観察・写真撮影を行い、種が明らかになったものを目視確認種として記載した。

魚類の標準和名と種の配列は中坊(2013)を、動物門の順序は今原ほか(2011)を参考にした。

## 観察の結果

### 1 田越川中流域

観察会で確認した種は軟体動物（貝類）3種、節足動物（エビ・カニ類）14種、魚類23種、爬虫類（カメ類）2種であった（表2）。

表2. 田越川中流域の観察会で確認した種

観察日	2002-2004	2005/10/22	2006/1/29	2006/5/21	2008/6/8	2008/10/13	2009/6/27	2009/10/18	2010/10/24	2011/5/21	2012/7/22	2013/7/20	2014/7/19	2016/8/27
観察場所	田越川	丸山病院横	池子川上流域	池子川合流点	池子川合流点	池子川合流点	池子川ゲート前	池子川合流点	池子川合流点	池子川合流点	下田橋観水施設	下田橋観水施設	池子川合流点	池子川合流点
観察時間	-	10:00~12:00	-	-	-	-	9:00~11:30	-	9:30~11:30	9:30~11:30	9:30~11:30	9:30~11:30	9:00~11:00	9:00~11:00
天候	-	-	-	-	-	-	晴	-	曇り	晴	曇り	晴	-	曇り
風	-	-	-	-	-	-	1m	-	2m	4m	2m	無風	-	3m
気温	-	-	-	-	-	-	27℃	-	19℃	22℃	25℃	28℃	-	28℃
水温	-	-	-	-	-	-	20℃	-	15℃	-	-	15℃	-	-
<b>和名</b>														
<b>軟体動物</b>														
マシジミ		●					●		●	●				●
イシマキガイ		●							●	●			●	●
カワニナ									●		●			●
<b>節足動物</b>														
クロベンケイガニ					●	●		●				●	●	●
ベンケイガニ	●										●			
モクズガニ	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
イソガニ												●		
テナガエビ	●						●			●	●	●	●	
ヒラテテナガエビ	●	●							●					●
ミナミテナガエビ							●		●					●
ミゾレヌマエビ									●					
ヌマエビ							●			●				●
ヌマエビの1種													●	
スジエビ		●												
ヌカエビ		●												
ヤマトヌマエビ			●											
シマアメンボ									●					
<b>魚類</b>														
<b>ウナギ目</b>														
<b>ウナギ科</b>														
ニホンウナギ	●	●				●			●		●	●	●	
<b>コイ目</b>														
<b>コイ科</b>														
コイ	●	●											●	
フナ属の1種	●		●											
オイカワ	●	●		●				●	●				●	●
アブラハヤ			●											
ウグイ	●													
モツゴ		●												
<b>サケ目</b>														
<b>アユ科</b>														
アユ	●	●					●	●	●	●	●			
<b>サケ科</b>														
サケ		●												
<b>ボラ目</b>														
<b>ボラ科</b>														
ボラ	●	●					●	●	●	●	●		●	●
<b>ダツ目</b>														
<b>メダカ科</b>														
ミナミメダカ		●					●			●				
シロメダカ(改良種)		●												
<b>スズキ目</b>														
<b>カジカ科</b>														
カマキリ														●
<b>ハゼ科</b>														
ミミズハゼ									●					
マハゼ												●		
ヌマチチブ	●	●					●	●	●	●	●	●	●	●
ウロハゼ												●		
スミウキゴリ		●							●	●				
ウキゴリ							●			●				
シマヨシノボリ	●	●	●	●			●	●	●	●			●	●
ゴクラクハゼ		●		●			●			●	●		●	●
トウヨシノボリ	●												●	
<b>フグ目</b>														
<b>フグ科</b>														
クサフグ	●	●									●			
<b>爬虫類</b>														
クサガメ												●		
アカミミガメ												●		



## 1) 軟体動物 (貝類)

観察会で確認したのはマシジミ、イシマキガイ、カワニナの3種であった(図5)。



マシジミ(2016/8/27 池子川合流点)



イシマキガイ(2016/8/27 池子川合流点)



カワニナ(2016/8/27 池子川合流点)

図5 田越川水系で確認した貝類(磯貝撮影)

## 2) 節足動物 (エビ・カニ類)

観察会で確認したのは14種であった。モクズガニとクロベンケイガニ、テナガエビ類が多数出現したが、他のベンケイガニ科のカニ類は2013年以降確認していない。目視調査で国外外来種のアメリカザリガニが複数確認された(図6)。



モクズガニ(2011/11/4 下田橋)



クロベンケイガニ  
(2014/10/10 池子川合流点)



ミナミテナガエビ  
(2014/7/14 池子川合流点)



アメリカザリガニ(鳥はアオサギ)  
(2010/10/12 池子川合流点)

図6 田越川水系で目視確認した節足動物(小林撮影)

### 3) 魚類

観察会で確認した魚類は7目9科23種であった。分類群別の内訳はウナギ目1種、コイ目6種、サケ目2種、ボラ目1種、ダツ目2種、スズキ目10種、フグ目1種であった。スズキ目の10種は全てハゼ科の魚種で全体の43.5%を、次いでコイ目が26.1%を占めた。中流域の出現種の約半数はヌマチチブ、シマヨシノボリ、ゴクラクハゼなどハゼ科の魚類で、次いでニホンウナギ、オイカワ、ボラ、アユの出現が多かった(図7)。



ヌマチチブ(2014/7/19 下田橋)



ニホンウナギ(2012/9/6 向原橋)



アユ(2014/7/30 中原橋)

図7 中流域でよく出現した魚類

田越川で初めて確認された魚類は、ウロハゼが2013年に下田橋親水施設で、2016年にはカマキリが池子川合流点で出現し、齋藤ほか(2017)が報告している(図8)。ウグイは2004年11月に出現記録があるが、小林が9年後の2013年に蓮沼橋で捕獲された個体を確認した(図8)。



ウロハゼ(下田橋親水施設)  
(2013/7/20 磯貝撮影)



カマキリ(池子川合流点)  
(2016/8/27 磯貝撮影)



ウグイ(蓮沼橋)  
(2013/8/21 小林撮影)

図8 新たに出現を確認した魚類

目視調査で確認した魚類は8目12科19種で、分類群別の内訳はエイ目1種、ウナギ目1種、コイ目6種、サケ目2種、ボラ目1種、ダツ目1種、スズキ目5種、フグ目2種であった(表3)。外来種の出現は2目2科7種で、そのうちオオクチバスを2010年に田越川本流で初めて確認した(表3)。また、久木川合流地点～清水橋間でアカエイ、スズキ、ヒイラギ、ヒガンフグを(図9)、逗子橋～池子川合流点付近ではコイの改良種、ソウギョ、ニゴイ、ボラ、オオクチバス、クロダイ、クサフグを、2012年には下田橋親水施設でミナミメダカを確認した(図10)。

田越川中流域の観察会と目視調査で確認した魚類の合計は 8 目 14 科 34 種であった。目視だけでも 19 種と多くの魚類が観察され、側道を散歩する楽しみの一つになろう。

表3 田越川水系(河川・池沼含む)で目視確認した魚類				
目名	科名	和名	目視年月日	目視調査場所
トビエイ	アカエイ	アカエイ	2013/4/26	久木川合流点
ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	2016/2/27	池子川合流点
コイ	コイ	コイ(改良種)	2011/10/9	池子川合流点
		ヒレナガゴイ(改良種)	2012/3/25	東橋
		オイカワ	2012/7/8	東橋
		オイカワ	2015/6/29	東橋
		ソウギヨ	2011/11/7	逗子橋
		ウグイ	2013/8/21	蓮沼橋
		ニゴイ	2010/9/26	池子川合流点
		ニゴイ	2011/4/17	池子川合流点
		ニゴイ	2015/4/19	池子川合流点
		ニゴイ	2016/10/23	池子川合流点
サケ	アユ	アユ	2011/7/12	蓮沼橋
	サケ	サケ	1995/10/12	久木川川間橋
	サケ	サケ	2009/11/24	池子川合流点
ボラ	ボラ	ボラ	2014/1/7	久木川富士見橋
ダツ	メダカ	ミナミメダカ	2012/8/19	下田橋親水施設
スズキ	スズキ	スズキ	2011/1/29	仲町橋
	サンフィッシュ	ブルーギル	2015/1/23	名越ため池
		オオクチバス	2010/9/26	下田橋
		オオクチバス	2011/2/19	下田橋
		オオクチバス	2012/5/30	清水橋
		オオクチバス	2016/10/23	池子川合流点
	ヒイラギ	ヒイラギ	2010/9/26	清水橋
	タイ	クロダイ	2016/7/17	池子川合流点
フグ	フグ	ヒガンフグ	2016/11/4	清水橋
		クサフグ	2015/6/29	下田橋



アカエイ (鳥はアオサギ)  
(2013/4/26 久木川合流点)



スズキ (2011/1/29 仲町橋)



ヒイラギ (鳥はアオサギ)  
(2010/9/26 清水橋)



ヒガンフグ (2016/11/4 清水橋)

図9 田越川水系で目視確認した魚類 (小林撮影)



コイ改良種 (通称:ニシキゴイ)



ソウギョ (2011/11/7 下田橋親水施設)



ニゴイ (2010/9/26 池子川合流点)



ボラ (2014/1/7 久木川)



オオクチバス (2011/2/19 下田橋)



クロダイ (2016/7/17 池子川合流点)



クサブグ (2015/6/29 下田橋)



ミナミメダカ (下田橋親水施設)  
(2012/8/19 磯貝撮影)

図 10 田越川水系で目視確認した魚類 (小林撮影)  
(9)

## 2) 爬虫類（カメ類）

観察会では2013年にクサガメとアカミミガメの2種を捕獲（表2）し、目視調査ではアカミミガメは日常的に観られたがクサガメは稀であった。リバークーターは2010年に向原橋、2011年と2016年に池子川合流点で確認し、ハナガメは2011年に久木の名越ため池で、田越川本流では2014年に下田橋、2016年には逗子橋で確認した（表4・図11）。

カメの種類	目視年月日	目視場所
クサガメの雌雄	2011年10月6日	下田橋
クサガメ	2014年9月26日	池子川合流点
クサガメ	2016年4月19日	烏川橋
アカミミガメの雌雄	2010年4月8日	下田橋
アカミミガメの産卵	2014年9月23日	東橋
アカミミガメの幼体	2015年6月1日	東橋
アカミミガメ	2015年6月29日	下田橋親水施設
リバークーター	2010年6月17日	向原橋
リバークーター	2011年4月29日	池子川合流点
リバークーター	2016年5月23日	池子川合流点
ハナガメ	2011年4月14日	名越ため池
ハナガメ	2014年4月22日	下田橋
ハナガメ	2016年4月27日	逗子橋



クサガメ(2014/9/26 池子川合流点)



アカミミガメ(2012/11/1 池子川合流点)



リバークーター(2011/4/29 池子川合流点)



ハナガメ(2014/4/22 下田橋)

図11 田越川水系で目視確認したカメ類(小林撮影)

## 2 田越川河口域

観察会で確認した種は、軟体動物 5 種、節足動物 25 種、魚類 35 種であった (表 5)。

観察日	2006/10/21	2007/8/26	2009/8/23	2010/8/29	2011/8/28	2012/8/19	2013/8/24	2014/8/23
観察場所	渚橋周辺	渚橋周辺	渚橋周辺	渚橋周辺	渚橋周辺	渚橋周辺	渚橋周辺	渚橋周辺
観察時間	—	—	—	—	9:00~11:30	10:00~12:00	10:00~12:00	9:00~10:30
天候	—	—	—	—	晴	—	—	曇り後雨
風	—	—	—	—	3 m	3 m	—	—
気温	—	—	—	—	27℃	32℃	—	—
水温	—	—	—	—	—	—	—	—
<b>和名</b>								
<b>軟体動物</b>								
アラムシロガイ	●							
ツメタガイ		●						●
アカニシ		●			●			
クロヘリアメフラシ					●			
フレリトゲアメフラシ		●	●	●	●		●	●
<b>節足動物</b>								
クルマエビ		●						
クルマエビの1種			●			●		
フトミソエビ	●							
ウシエビ			●					
イソスジエビ			●			●		
ウリタエビジャコ	●		●					
シラタエビ		●			●			
スジエビモドキ	●		●	●	●			
テッポウエビ		●			●			
ユビナガスジエビ			●					
フトオビソテッポウエビ	●			●			●	
コブヨコバサミ		●	●	●	●		●	
イシダタミヤドカリ			●			●		
ニホンスナモグリ			●					
ユビナガホンヤドカリ	●		●					
キンセンガニ					●	●	●	●
イシガニ			●		●	●		
タイワンガザミ			●	●	●		●	●
ガザミ	●	●	●	●	●	●		
オウギガニ					●			
ケフサイソガニ	●	●			●		●	
ヒライソガニ	●	●	●	●		●	●	●
マメコブシガニ	●	●	●			●		
イツカククモガニ					●			
イソガニ	●							
<b>魚類</b>								
<b>アンコウ目</b>								
カエルアンコウ科								
カエルアンコウ							●	
<b>ボラ目</b>								
<b>ボラ科</b>								
ボラ			●	●	●	●	●	●
セスジボラ							●	●
<b>トウゴロウイワシ目</b>								
<b>トウゴロウイワシ科</b>								
ムギイワシ		●		●				
ムギイワシ属の1種						●		●
<b>スズキ目</b>								
<b>コチ科</b>								
マゴチ				●		●	●	
<b>スズキ科</b>								
スズキ			●					
<b>アジ科</b>								
ミナミイケカツオ						●		
ギンガメアジ属の1種						●		
<b>ヒイラギ科</b>								
ヒイラギ		●		●	●	●		
<b>クロサギ科</b>								
クロサギ			●	●	●		●	
<b>イサキ科</b>								
イサキ							●	
<b>コシヨウダイ</b>								
<b>タイ科</b>								
ヘダイ			●					
クロダイ			●		●	●		●
キチヌ						●		
<b>キス科</b>								
シロギス			●	●	●	●		●
<b>ヒメジ科</b>								
ヨメヒメジ				●				
<b>シマイサギ科</b>								
コトヒキ		●	●		●			
<b>ネズツボ科</b>								
ネズミゴチ	●						●	●
<b>ハゼ科</b>								
ミミズハゼ	●			●				
ミミズハゼ属の1種			●				●	
マハゼ	●	●	●	●	●	●	●	●
アシロハゼ	●	●	●	●	●	●	●	●
アカオビシマハゼ	●	●	●	●	●	●	●	●
ヒメハゼ	●	●	●	●	●	●	●	●
ウロハゼ							●	
アゴハゼ	●					●		
<b>ドロメ</b>								
<b>カマス科</b>								
オニカマス				●				
<b>カレイ目</b>								
<b>ササウシノシタ科</b>								
ササウシノシタ	●							●
<b>フグ目</b>								
<b>ギマ科</b>								
ギマ		●		●				
<b>カワハギ科</b>								
アミメハギ			●				●	
カワハギ						●	●	●
<b>フグ科</b>								
クサフグ	●		●					
サザナミフグ					●			

### 1) 軟体動物

観察会で確認した種はアラムシロガイ、ツメタガイ、アカニシ、クロヘリアメフラシ、フリトゲアメフラシの5種であった。

### 2) 節足動物

観察会で確認した節足動物は25種であった。目視調査では中流域と同様に久木川合流付近の干潟でクロベンケイガニが多数観察されたが、他のベンケイガニ科の種類は確認できなかった。2011年頃には清水橋付近でチゴガニとコメツキガニを、2012年頃にはヤマトオサガが確認された。その後浚渫工事等の影響で減少し、2015年末時点での生息は確認されていない(図12)。



チゴガニ(2011/8/16)



コメツキガニ(2011/8/14)



ヤマトオサガニ(2012/7/16)

図12 田越川河口域で観られたカニ類(磯貝撮影)

### 3) 魚類

観察会で確認した魚類は6目20科35種であった。分類群別の内訳はアンコウ目1種、ボラ目2種、トウゴロウイワシ目2種、スズキ目24種、カレイ目1種、フグ目5種で全体の68.6%をスズキ目が占めた。

特記する種には、ミナミイケカツオ(全長約100mm)、サザナミフグの幼魚、カエルアンコウがある。ミナミイケカツオは表層域に生息する沿岸海産魚で、幼魚期には浅瀬を遊泳するといわれ本河口域に偶発的に出現したと思われる。サザナミフグは主に熱帯域に生息し、幼魚は河口域に侵入するといわれ、採集時期が8月のため黒潮に乗って来遊した可能性がある。

カエルアンコウは沿岸の浅海の岩場域に生息する魚であるが、何らかの影響で侵入したものと思われる。また、外洋性のカマス科の中で最大種のオニカマスやギンガメアジ属の1種の幼魚が出現した（図13）。



ミナミイケカツオ(下)、(上)はヒイラギ(成魚)

(2012/8/19 磯貝撮影)



サザナミフグ

(2011/8/28 畑井撮影)



オニカマス

(2010/8/29 大谷撮影)

図13 河口域で確認した幼魚

### 3 岩浜海岸(磯)

観察会で確認した種は、刺胞動物1種、扁形動物2種、紐形動物1種、環形動物1種、星口動物1種、軟体動物32種、節足動物33種、棘皮動物15種、魚類28種。植物は藻類22種、被子植物1種であった(表6-1・2)。

観察場所が岩礁地帯のため参加者の安全を優先し、観察範囲を限定したので普通に観られる種類が多数を占めた。

確認した種の中で主に砂泥地に生息する星口動物のスジホシムシモドキ、節足動物コブヨコバサミ、棘皮動物のヒラモミジ、そして海産種子植物のアマモが出現した。



表6-1 岩浜海岸の観察会で確認した種

観察日	2004/6/5	2006/6/24	2007/6/2	2008/5/24	2011/6/5	2012/6/3	2013/6/9	2014/6/15	2015/5/17	2016/7/3
観察場所	葛ヶ浜	葛ヶ浜	葛ヶ浜	葛ヶ浜	葛ヶ浜	葛ヶ浜	葛ヶ浜	葛ヶ浜	葛ヶ浜	葛ヶ浜
観察時間	-	10:00~12:30	10:00~11:00	-	9:30~12:00	9:00~11:00	9:30~12:00	9:30~12:00	9:00~12:00	9:00~12:00
天候	晴	薄曇り	晴	-	曇り	薄曇り	晴	晴	晴	晴
風	-	南 2m	無風	-	南 3m	東2m	南 2m	南 2m	南 2m	南 6m
気温	-	26℃	22℃	-	27℃	21℃	25℃	27℃	24℃	27℃
水温	-	-	23℃	-	25℃	22℃	26℃	26℃	24℃	26℃
潮位	-	-	-	-	中潮 20cm	大潮 4cm	大潮 9cm	大潮 -5cm	大潮 10cm	大潮 14cm
和名										
刺胞動物										
ミナミウメボシイソギンチャク										●
扁形動物										
ウスヒラムシ	●							●		
ツノヒラムシ									●	
紐形動物										
ミドリヒモムシ			●							
環形動物										
オニイソメ	●									
星口動物										
スジホシムシモドキ										●
軟体動物										
ウスヒザラガイ					●					●
ヒザラガイ						●				●
ホソウスヒザラガイ							●			●
ヨメガカサ										●
オトメガサ										●
サザエ										●
コシダカサザエ										●
スガイ										●
クボガイ					●					●
ホシタカラガイ		●								●
イシマテ										●
アコヤガイ		●	●							●
イガイ科の1種										●
ケマンガイ										●
マツカセガイ										●
マダコ	●		●							●
ミミイカ			●							●
キヌハダウミウシ		●		●						●
チシオウミウシ		●								●
イソウミウシ			●							●
クモガタウミウシ		●								●
アオウミウシ		●								●
シロウミウシ		●								●
サラサウミウシ		●								●
クロシタナシウミウシ		●								●
ミヤコウミウシ		●								●
マダラウミウシ										●
ムカデミノウミウシ										●
クロミドリガイ										●
アメフラシ			●							●
クロヘリアメフラシ										●
ウミナメクジ										●
節足動物										
イソヘラムシ			●							
ホソヘラムシ										●
モバヨコエビ			●							●
トゲワレカラ			●							●
イソテッポウエビ		●								●
テッポウエビモドキ										●
エビジャコ			●							●
アシナガモエビモドキ										●
イソスジエビ					●					●
スジエビモドキ		●		●	●					●
スナモグリ										●
イソカニダマシ	●	●								●
ホンヤドカリ										●
クロシマホンヤドカリ										●
ケアシホンヤドカリ										●
ヒゲナガホンヤドカリ										●
イソヨコバサミ										●
コブヨコバサミ		●	●		●					●
ヨツハモガニ										●
イソクズガニ										●
ケブカガニ			●							●
イッカクガニ										●
イシガニ	●	●	●							●
ベニツケガニ		●								●
フタバベニツケガニ				●						●
タイワンガザミ	●									●
オウギガニ		●		●						●
ハリダシオウギガニ			●							●
ヒツメガニ			●							●
イワガニ										●
アカテガニ										●
イソガニ										●
ヒライソガニ		●		●						●
棘皮動物										
ニッポンウミシダ		●								
ヒラモミジ										●
イトマキヒトデ		●	●							●
ヌノメイトマキヒトデ			●							●
アカヒトデ										●
ヤツデヒトデ		●								●
ニホンクモヒトデ		●	●							●
サンショウウニ		●								●
ハリサンショウウニ			●							●
ムラサキウニ		●								●
パフンウニ										●
タコノマクラ	●									●
マナマコ										●
アカナマコ										●
テツイロナマコ				●	●					●

表6-2 岩浜海岸の観察会で確認した種

観察日	2004/6/5	2006/6/24	2007/6/2	2008/5/24	2011/6/5	2012/6/3	2013/6/9	2014/6/15	2015/5/17	2016/7/3
観察場所	葛ヶ浜	葛ヶ浜	葛ヶ浜	葛が浜	葛ヶ浜	葛ヶ浜	葛ヶ浜	葛ヶ浜	葛ヶ浜	葛ヶ浜
観察時間	-	10:00~12:30	10:00~11:00	-	9:30~12:00	9:00~11:00	9:30~12:00	9:30~12:00	9:00~12:00	9:00~12:00
天候	晴	薄曇り	晴	-	曇り	薄曇り	晴	晴	晴	晴
風	-	南 2m	無風	-	南 3m	東2m	南 2m	南 2m	南 2m	南 6m
気温	-	26℃	22℃	-	27℃	21℃	25℃	27℃	24℃	27℃
水温	-	-	23℃	-	25℃	22℃	26℃	26℃	24℃	26℃
潮位	-	-	-	-	中潮 20cm	大潮 4cm	大潮 9cm	大潮 -5cm	大潮 10cm	大潮 14cm
和名										
魚類										
メジロザメ目										
ドチザメ科										
ドチザメ	●								●	
ニシン目										
カタクチイワシ科										
カタクチイワシ				●			●	●		
ナマズ目										
ゴンズイ科										
ゴンズイ								●	●	
アンコウ目										
カエルアンコウ科										
カエルアンコウ	●									
トゲウオ目										
ヨウジウオ科										
タツノオトシゴ			●							
ボラ目										
ボラ科										
ボラ					●					
トウゴロウイワシ目										
トウゴロウイワシ科										
トウゴロウイワシ			●							
スズキ目										
ハオコゼ科										
ハオコゼ	●	●				●	●	●	●	●
ヒイラギ科										
ヒイラギ					●					
カゴカキダイ科										
カゴカキダイ						●				●
メジナ科										
メジナ					●	●	●			●
カジカ科										
アナハゼ			●	●						
タウエガジ科										
フサギンボ		●								
ニシキギンボ科										
ギンボ									●	
ヘビギンボ科										
ヘビギンボ			●							
イソギンボ科										
イソギンボ						●		●		
ナベカ				●			●	●		●
ウバウオ科										
ミサキウバウオ									●	
ハゼ科										
ミミズハゼ		●		●						
キヌバリ				●						
アカオビシマハゼ			●	●		●				
チチブ						●				
ウキゴリ属の1種					●					
アゴハゼ				●	●	●	●	●	●	●
ドロメ									●	●
フグ目										
カワハギ科										
アミメハギ			●							
フグ科										
キタマクラ						●				
クサフグ		●			●	●				●
紅藻類										
ニセフサノリ								●	●	●
ピリヒバ							●		●	●
カキノテ									●	●
マクサ									●	●
イボツノマタ					●					
オゴノリ					●					
ヨブソソ								●		●
アオサ藻綱										
アナアオサ							●			
ミル							●		●	●
ヒラミル									●	●
タマミル										●
褐藻類										
ウミウチワ							●	●	●	●
フクロノリ								●	●	●
イワヒゲ							●		●	●
カゴメノリ									●	●
カジメ					●			●	●	●
アラメ					●			●	●	●
イロロ							●		●	●
ヒジキ					●		●		●	●
オオバモク							●	●	●	●
ウミトラノオ								●	●	●
ホンダワラ									●	●
種子植物										
アマモ							●	●	●	●

## 総 括

### 1 田越川水系の観察会(目視観察含む)で確認した魚類 61 種について

中流域で確認した魚類は観察会で 7 目 9 科 23 種、目視調査では 8 目 12 科 19 種で、その合計は 8 目 14 科 34 種であった。河口域では 6 目 20 科 35 種が確認された。

中流域と河口域の出現魚類を集計すると田越川水系全体で 11 目 28 科 61 種を確認した(表 7)。確認された 61 種の分類群別の内訳は、トビエイ目 1 種、ウナギ目 1 種、コイ目 10 種、サケ目 2 種、アンコウ目 1 種、ボラ目 2 種、トウゴロウイワシ目 2 種、ダツ目 2 種、スズキ目 33 種、カレイ目 1 種、フグ目 6 種であった。スズキ目が全体の 54.1%、次いでコイ目が 16.4%、フグ目が 9.8% を占め、その他が 19.7% であった。また、種類数ではハゼ科の魚種が 15 種で全体の 24.6%、次いでコイ科が 10 種で 16.4% を占めた。中流域ではスズキ目 15 種とコイ目 10 種で全体の 73.5% を、河口域ではスズキ目 24 種とフグ目 5 種で 82.9% を占め、河川環境の違いが出現種の相違として表れている。

目名	科名	和名	中流域出現種	中流域目視確認種	河口域出現種
トビエイ	アカエイ	アカエイ		●	
ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	●	●	
コイ	コイ	コイ	●	●	
		コイ(改良種)		●	
		ヒレナガゴイ(改良種)		●	
		フナ属の1種	●		
		オイカワ	●	●	
		ソウギョ		●	
		アブラハヤ	●		
		ウグイ	●	●	
		モツゴ	●		
		ニゴイ		●	
サケ	アユ	アユ	●	●	
	サケ	サケ	●	●	
アンコウ	カエルアンコウ	カエルアンコウ			●
ボラ	ボラ	ボラ	●	●	●
		セスジボラ			●
トウゴロウイワシ	トウゴロウイワシ	ムギイワシ			●
		ムギイワシ属の1種			●
ダツ	メダカ	ミナミメダカ	●	●	
		シロメダカ(改良種)	●		
スズキ	コチ	マゴチ			●
	スズキ	スズキ		●	●
	サンフィッシュ	ブルーギル		●	
		オオクチバス		●	
	アジ	ミナミイケカツオ			●
		ギンガメアジ属の1種			●
	ヒイラギ	ヒイラギ		●	
	クロサギ	クロサギ			●
	イサキ	コシヨウダイ			●
	タイ	ヘダイ			●
		クロダイ		●	●
		キチヌ			●
	キス	シロギス			●
	ヒメジ	ヨメヒメジ			●
	シマイサキ	コトヒキ			●
	カジカ	カマキリ	●		
	ネズッコ	ネズミゴチ			●
	ハゼ	ミミズハゼ	●		●
		ミミズハゼ属の1種			●
		マハゼ	●		●
		アシシロハゼ			●
		アカオビシマハゼ			●
		ヌマチチブ	●		
		ヒメハゼ			●
		ウロハゼ	●		●
		スミウキゴリ	●		
		ウキゴリ	●		
		シマヨシノボリ	●		
		ゴクラクハゼ	●		
		トウヨシノボリ	●		
		アゴハゼ			●
		ドロメ			●
	カマス	オニカマス			●
カレイ	ササウシノシタ	ササウシノシタ			●
フグ	ギマ	ギマ			●
	カワハギ	アミメハギ			●
		カワハギ			●
	フグ	ヒガンフグ		●	
		クサフグ	●	●	●
		サザナミフグ			●
11 目	28 科	61 種	23 種	19 種	35 種

## 2 田越川水系に関する既往報告で確認された魚類 84 種について

過去の田越川の魚類調査には、林(1973,1976)、林・長峰(1981)、逗子市教育委員会(1985,1986,1987)、出島(2007)、萩原ほか(2008)、北原(2008)、神奈川県環境科学センター(2014)、神奈川県横須賀土木事務所(2015)、逗子市(2015)、山川・瀬能(2015,2016)、山川ほか(2017)等がある。

既往報告 14 編で確認された魚類を集計すると 12 目 35 科 84 種であった(表 8)。

魚類 84 種の分類群別の内訳は、トビエイ目 1 種、ウナギ目 2 種、コイ目 14 種、ナマズ目 1 種、サケ目 2 種、トゲウオ目 2 種、ボラ目 4 種、カダヤシ目 1 種、ダツ目 1 種、スズキ目 52 種、カレイ目 1 種、フグ目 3 種であった。スズキ目が全体の 61.9%、次いでコイ目が 16.7%であった。また、種類数ではハゼ科の魚種が 27 種で全体の 32.1%、次いでコイ科が 12 種で 14.3%であった。

既往報告のうち、田越川の上流から河口域までの調査では、萩原ほか(2008)が 9 目 17 科 37 種、神奈川県環境科学センター(2014)が 7 目 13 科 32 種、神奈川県横須賀土木事務所(2015)が 7 目 15 科 36 種を確認している。

また、神奈川県環境科学センター(2014)が実施した神奈川県内 25 河川の魚類調査では、相模川が 9 目 16 科 46 種、境川が 7 目 13 科 35 種、金目川が 6 目 10 科 34 種、酒匂川が 8 目 11 科 33 種、そして、鶴見川の 8 目 12 科 32 種と並び田越川水系は 7 目 13 科 32 種と 5 番目に多くの種類が出現した河川であった。一方、近隣河川の出現種は、滑川が 7 目 11 科 21 種、森戸川が 4 目 6 科 15 種、下山川が 5 目 8 科 15 種、平作川が 3 目 4 科 12 種、松越川が 7 目 3 科 7 種と少なかった。しかし、近年の報告では近隣の下山川水系から過去の報告を含め 9 目 21 科 52 種の魚類が確認された(三井翔太ほか,2017)。

## 3 田越川水系全体で確認した魚類 105 種について

観察会(目視調査含む)で出現した 11 目 28 科 61 種と既往報告で確認された 12 目 35 科 84 種を集計すると、田越川水系全体(河川・河口・池沼含む)から確認された魚類は 14 目 43 科 105 種であった(表 9)。

逗子市の中央を流れる田越川は、日常何げなく見ているが、神奈川県内でも多くの魚類が出現する貴重な水系である。

### 1) 分類群別

確認した魚類 105 種の分類群別の内訳は、トビエイ目 1 種、ウナギ目 2 種、コイ目 16 種、ナマズ目 1 種、サケ目 2 種、アンコウ目 1 種、トゲウオ目 2 種、ボラ目 4 種、トウゴロウイワシ目 2 種、カダヤシ目 1 種、ダツ目 2 種、スズキ目 62 種、カレイ目 1 種、フグ目 8 種でスズキ目が全体の 59.0%、次いでコイ目 15.2%その他が 25.8%を占めた。

種類数ではハゼ科の魚種が 29 種(27.6%)、次いでコイ科の 14 種(13.3%)、フグ科の 5 種(4.8%)でハゼ科の魚種が全体の約 1/4 を占めた(表 9)。

表8 田越川水系（河川・池沼含む）の既往報告で確認された魚種

目名	科名	和名	林		林・長峰	運子教委	運子教委	運子教委	萩原庄か	北原	神楽環科セ	横須賀土木	運子市	山川・瀬田	山川・瀬田	山川庄か
			1973	1976												
トビエイ	アカエイ	アカエイ										●				
ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	●			●	●	●	●			●	●			
	ウツボ	ウツボ			●											
コイ	コイ	コイ		●		●	●	●			●	●	●			
		コイ(改良種)						●			●	●				
		ギンブナ	●	●		●	●		●		●	●	●			
		キンブナ									●	●				
		キンギョ(改良種)	●								●	●				
		フナ属の1種		●								●				
		オイカワ							●		●	●				
		ソウギョ									●	●				
		アブラハヤ	●				●		●		●					
		モツゴ		●			●		●		●					
		ニゴイ							●							
		コイ科の1種										●				
	ドジョウ	ドジョウ	●	●		●		●	●		●	●				
		ホトケドジョウ	●										●			
ナマス	ゴズイ	ゴズイ			●											
サケ	アユ	アユ							●		●	●				
	サケ	サケ							●			●				
トゲウオ	ヨウジウオ	ガンテンイシヨウジ														●
		カワヨウジ														●
ボラ	ボラ	ボラ	●			●	●	●	●		●	●				
		セスジボラ			●	●	●	●	●			●				
		コボラ									●					
		ボラ科の1種										●				
カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	●						●							
ダツ	メダカ	ミナミメダカ	●			●		●	●		●	●	●			
スズキ	フサカサゴ	カサゴ			●											
	コチ	マゴチ									●					
	スズキ	スズキ							●		●					
	サンフィッシュ	ブルーギル				●	●	●	●							
		オオクチバス				●	●	●	●							
	ヒラギ	ヒラギ			●							●				
	クロサギ	クロサギ科の1種									●					
	イサキ	コショウダイ							●			●				
	タイ	クロダイ							●			●				
	スズメダイ	シマスズメダイ			●											
	シマイサキ	コトヒキ									●					
		シマイサキ									●					
	ユゴイ	ユゴイ							●		●					●
	カゴカキダイ	カゴカキダイ			●											
	メジナ	メジナ			●											
	カジカ	イダテンカジカ			●											
		アヤアナハゼ			●											
	ベラ	ニシキベラ			●											
	タウエガジ	ダイナンギンボ			●											
	イソギンボ	イソギンボ			●											
		ナベカ			●		●									
	ネズッコ	ネズミゴチ			●				●							
	カワアナゴ	カワアナゴ													●	
		チチブモドキ										●				
	ハゼ	ミミズハゼ							●			●				
		ミミズハゼ属の1種							●							
		ミナミサルハゼ														●
		タネハゼ							●							●
		マハゼ	●				●		●		●	●				
		アシシロハゼ									●	●				
		ボウズハゼ									●	●				
		アベハゼ									●	●				
		アカオビシマハゼ									●	●				
		スマチチブ							●		●	●				
		チチブ	●						●		●	●				
		ヒナハゼ							●		●	●				
		クモハゼ			●											
		クロホシヤハズハゼ														●
		クロコハゼ							●							●
		ウロハゼ										●				
		ヒメハゼ					●		●							
		ミナミヒメハゼ														●
		スミウキゴリ							●		●	●				
		ウキゴリ	●						●				●			
		ウキゴリ属の1種							●		●	●				
		アゴハゼ							●							
		シマヨシノボリ							●		●	●	●			
		クロヨシノボリ							●		●	●	●			
		ゴクラクハゼ							●		●	●				
		トウヨシノボリ							●							
		ヨシノボリ属の1種	●			●	●	●				●	●			
	タイワンドジョウ	カムルチー				●		●								
カレイ	ササウシノシタ	ササウシノシタ			●				●							
フグ	フグ	キタマクラ			●	●		●	●							
		クサフグ				●		●	●							
		コモンフグ									●					
12目	35科	84種	13種	5種	18種	13種	13種	12種	37種	2種	32種	36種	8種	1種	7種	1種

運子教委：運子市教育委員会、横須賀土木：神奈川県横須賀土木事務所の略、神楽環科セ：神奈川県環境科学センターの略、運子市：池子の森自然公園環境調査結果の概要

表9 田越川観察会(目視調査含む)と既往報告で確認した魚種

目名	科名	和名	生活史型	中流域確認種	中流域目視確認種	河口域確認種	既往報告確認種	外来種	神奈川県RDB種
トビエイ	アカエイ	アカエイ	周縁魚		●		●		
ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	通し回遊魚	●			●		
	ウツボ	ウツボ	周縁魚				●		
コイ	コイ	コイ	純淡水魚	●			●	国内外来種	情報不足
		コイ(改良種)	純淡水魚				●	国内外来種	
		ヒレナガゴイ(改良種)	純淡水魚			●	●	国内外来種	
		ギンブナ	純淡水魚				●		
		キンブナ	純淡水魚				●		絶滅危惧種IB類
		キンギョ(改良種)	純淡水魚				●	国内外来種	
		フナ属の1種	純淡水魚	●			●	国内外来種	
		オイカワ	純淡水魚	●	●		●	国内外来種	
		ソウギョ	純淡水魚		●		●	国内外来種	
		アブラハヤ	純淡水魚	●			●		準絶滅危惧
		ウグイ	純淡水魚	●	●		●	?	準絶滅危惧
		モツゴ	純淡水魚	●			●		
		ニゴイ	純淡水魚		●		●	国内外来種	絶滅危惧II類
		コイ科の1種	純淡水魚				●	国内外来種	
	ドジョウ	ドジョウ	純淡水魚				●		
		ホトケドジョウ	純淡水魚				●		絶滅危惧種IB類
ナマズ	ゴンズイ	ゴンズイ	周縁魚				●		
サケ	アユ	アユ	通し回遊魚	●	●		●		
	サケ	サケ	通し回遊魚	●	●		●		
アンコウ	カエルアンコウ	カエルアンコウ	周縁魚			●	●		
トゲウオ	ヨウジウオ	ガンテンイシヨウジ	周縁魚				●		
		カワヨウジ	周縁魚				●		
ボラ	ボラ	ボラ	周縁魚	●	●	●	●		
		セスジボラ	周縁魚			●	●		
		コボラ	周縁魚				●		
		ボラ科の1種	周縁魚				●		
トウゴロウイワシ	トウゴロウイワシ	ムギイワシ	周縁魚			●	●		
		ムギイワシ属の1種	周縁魚			●	●		
カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	純淡水魚				●	国内外来種	
ダツ	メダカ	メダカ	純淡水魚	●	●		●	?	絶滅危惧IA類
		メダカ	純淡水魚	●			●	国内外来種	
		シロメダカ(改良種)	純淡水魚	●			●	国内外来種	
スズキ	フサカサゴ	カサゴ	周縁魚				●		
	コチ	マゴチ	周縁魚			●	●		
	スズキ	スズキ	周縁魚			●	●		
	サンフィッシュ	ブルーギル	純淡水魚			●	●	国内外来種	
		オオクチバス	純淡水魚			●	●	国内外来種	
	アジ	ミナミイケカツオ	周縁魚			●	●		
		ギンガメアジ属の1種	周縁魚			●	●		
	ヒイラギ	ヒイラギ	周縁魚		●	●	●		
	クロサギ	クロサギ	周縁魚			●	●		
		クロサギ科の1種	周縁魚			●	●		
	イサキ	コショウダイ	周縁魚			●	●		
	タイ	ヘダイ	周縁魚			●	●		
		クロダイ	周縁魚		●	●	●		
		キチヌ	周縁魚			●	●		情報不足
	キス	シロギス	周縁魚			●	●		
	ヒメジ	ヨメヒメジ	周縁魚			●	●		
	スズメダイ	シマスズメダイ	周縁魚			●	●		
	シマイサキ	コトヒキ	周縁魚			●	●		
		シマイサキ	周縁魚			●	●		
	ユゴイ	ユゴイ	周縁魚			●	●		
	カゴカキダイ	カゴカキダイ	周縁魚			●	●		
	メジナ	メジナ	周縁魚			●	●		
	ペラ	ニシキペラ	周縁魚			●	●		
	カジカ	カマキリ	周縁魚	●			●		絶滅危惧IA類
		イダテナカジカ	周縁魚				●		
		アヤアナハゼ	周縁魚				●		
	タウエガジ	ダイナンギンボ	周縁魚				●		
	イソギンボ	イソギンボ	周縁魚				●		
		ナベカ	周縁魚				●		
	ネズツボ	ネズミゴチ	周縁魚			●	●		
	カワアナゴ	カワアナゴ	周縁魚				●		
		チチブモドキ	周縁魚				●		情報不足
	ハゼ	ミミズハゼ	通し回遊魚	●			●		情報不足
		ミミズハゼ属の1種	通し回遊魚				●		
		ミナミサルハゼ	通し回遊魚				●		
		タネハゼ	周縁魚				●		
		マハゼ	周縁魚	●			●		
		アシシロハゼ	周縁魚				●		
		ボウズハゼ	通し回遊魚				●		準絶滅危惧
		アベハゼ	周縁魚				●		
		アカオビシマハゼ	周縁魚				●		
		スマチチブ	通し回遊魚	●			●		
		チチブ	通し回遊魚				●		
		ヒナハゼ	通し回遊魚				●		
		クモハゼ	通し回遊魚				●		
		クロホシヤハズハゼ	周縁魚				●		
		クロコハゼ	周縁魚				●		
		ヒメハゼ	通し回遊魚			●	●		
		ミナミヒメハゼ	周縁魚				●		
		ウロハゼ	周縁魚	●			●		注目種
		スミウキゴリ	通し回遊魚	●			●		準絶滅危惧
		ウキゴリ	通し回遊魚	●			●		
		ウキゴリ属の1種	通し回遊魚				●		
		アゴハゼ	周縁魚				●		
		ドロメ	周縁魚				●		
		シマヨシノボリ	通し回遊魚	●			●		
		クロヨシノボリ	通し回遊魚				●		準絶滅危惧
		ゴクラクハゼ	通し回遊魚	●			●		準絶滅危惧
		トウヨシノボリ	通し回遊魚	●			●		
		ヨシノボリ属の1種	通し回遊魚				●		
	カマス	オニカマス	周縁魚			●	●		
	タイワンドジョウ	カムルチー	純淡水魚				●	国内外来種	
カレイ	ササウシノシタ	ササウシノシタ	周縁魚			●	●		
フグ	ギマ	ギマ	周縁魚			●	●		
	カワハギ	アミメハギ	周縁魚			●	●		
		カワハギ	周縁魚			●	●		
	フグ	キタマクラ	周縁魚				●		
		ヒガンフグ	周縁魚				●		
		クサフグ	周縁魚	●	●	●	●		
		コモンフグ	周縁魚				●		
		サザナミフグ	周縁魚				●		
14目	43科	105種		23種	19種	35種	84種		

1.(生活史型)純淡水魚：一生を淡水域ですごす魚、通し回遊魚：一生を海と淡水の両域を往復する魚、周縁魚：普通は海で生活するが汽水域や淡水域に侵入する魚  
 2.(外来魚) 国内外来魚：国内から移入された種、 国外外来種：国外から移入された種、 ?：国内外来種か外来種か不明な種、  
 3.(神奈川県RDB) 神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006によるカテゴリ

## 2) 生活史型による出現魚種

生活史型による淡水魚のグループ分けを後藤(1987)、蓑宮・安藤(2008)に従い、純淡水魚(一生を淡水域で生活し海水中では生存できない魚)、通し回遊魚(一生の大部分を淡水域で過ごすが一時期を淡水と海水域を行き来する魚)、周縁魚(元来は海水魚であるが一時的に汽水や淡水域に入りこむ魚)に区分した。

確認した魚種105種を、この生活史型で区分すると純淡水魚が4目6科22種、通し回遊魚が3目4科20種、周縁魚が10目34科63種で、出現した魚類の60.0%が周縁魚であった。周縁魚と通し回遊魚を合計すると83種で、田越川の河口から中流域付近で見かける魚は、海または一時期を海で生活する魚類が全確認魚類の79.0%を占めた(表10)。また、周縁魚63種のうちスズキ目が42種(66.7%)を、通し回遊魚22種のうちハゼ目が17種(85.0%)を占めた。

近隣河川の周縁魚の出現は、森戸川が1目2科2種、下山川が1目3科3種であった(神奈川県環境科学センター,2014)。

また、森戸川については、萩原(1990)が8目15科24種を、萩原・斎藤(1999)が6目10科19種の出現を報告している。

観察会で出現した周縁魚は、河口域で6目20科32種が、中流域(目視調査含む)では4目8科10種が確認された。主な種類は、河口から渚橋付近ではミナミイケカツオ、オニカマス、サザナミフグなど南方系魚類の幼魚やカエルアンコウが、久木川合流付近ではアカエイ、仲町橋～清水橋付近ではスズキ、ヒイラギ、ヒガンフグさらに上流の下田橋付近～池子川合流点ではクロダイ、マハゼ、クサフグなどを確認した。

また、近年の調査では、干潮時に潮の流入がある富士見橋付近から神奈川県初記録かつ北限記録のタネハゼ、クロコハゼ(北原,2008)、ガンテンイシヨウジ(山川・瀬能,2016)、ミナミサルハゼ(山川ほか,2017)が、また、初記録のカワヨウジ、クロホシヤハズハゼ(山川・瀬能,2016)、そして北限記録のミナミヒメハゼ(山川・瀬能,2015,2016)などの南方系魚類が確認された。

田越川に多くの周縁魚が出現する理由は、河川の形態が関係する。田越川の特徴は、流呈が約6kmの割に河川勾配が比較的緩やかで堰堤や落差工が少なく、感潮域の距離が河口から2.36km上流の池子川合流付近まで長い(萩原,2008)。また、河口から0.56km上流の久木川合流付近まで河床の勾配がほとんどなく(神奈川県,2016)、河口は相模湾に広く開口している。この河川形態の特徴から、中流域までの長い感潮域には多種類の周縁魚が出現する。また、河口域は川幅が広く、水深も深いため、南方系や外洋性魚類の幼魚が潮汐運動などの影響を受けて侵入を容易にしている(神奈川県環境科学センター,2014)と考えられている。

表10 田越川水系に出現した魚類の生活史型種類数

生活史型	中流域出現種	中流域目視確認種	河口域出現種	既往文献出現種	出現魚種合計
在来種	2	0	0	6	6
国内外来種	5	4	0	7	9
純淡水魚	0	3	0	5	5
不明	1	2	0	1	2
合計	8	9	0	19	22
通し回遊魚	10	3	3	20	20
周縁魚	5	7	32	45	63
総合計	7目9科23種	8目12科19種	6目20科35種	12目35科84種	14目43科105種

### 3) 純淡水魚

田越川水系で確認された純淡水魚は 4 目 6 科 22 種で、その割合は全出現魚類の 21.0%と少なかった。魚類分類群の内訳はコイ目 16 種、カダヤシ目 1 種、ダツ目 2 種、スズキ目 3 種であった。また、在来種が 6 種、外来種が 14 種、不明 2 種で、外来種がより多く出現した (表 11)。

純淡水魚のうち在来種は 2 科 6 種 (ギンブナ、キンブナ、アブラハヤ、モツゴ、ドジョウ、ホトケドジョウ) で、県内の他水系と比べると生息する種数が少なかった。三浦半島魚類相の特徴は、純淡水魚が貧相であるとし、その理由として水系規模

在来種	国内外来種	国外外来種	不明
ギンブナ	コイ	ソウギョ	ウグイ
キンブナ	コイ(改良種)	カダヤシ	ミナミメダカ
アブラハヤ	ヒレナガゴイ(改良種)	ブルーギル	
モツゴ	キンギョ(改良種)	オオクチバス	
ドジョウ	フナ属の1種	カムルチー	
ホトケドジョウ	オイカワ		
	ニゴイ		
	コイ科の1種		
	シロメダカ(改良種)		
6種	9種	5種	2種

が小さく、半島という性格から内陸の大河川と接続したことがなく、淡水魚が入り込みにくかったことに起因するとされる (萩原ほか,2008)。

林 (1973) の調査結果によると、モツゴは久木の水場で釣りの対象とされ、アブラハヤは田越川上流の流水域の淵で群れ、ドジョウよりホトケドジョウのほうが採集量、発見率が共に高かったとし、在来種の豊かさを報告している。

萩原ほか (2008)、神奈川県環境科学センター (2014)、神奈川県横須賀土木 (2015) の調査では、ギンブナ、キンブナ、アブラハヤ、モツゴ、ドジョウなどの 5 種が確認された。しかし、観察会で確認した在来種は、モツゴが 2005 年に丸山病院付近で、アブラハヤが 2006 年に池子川上流で出現したが、それ以後の観察会からは確認されていない。

ギンブナは 1973 年から 2015 年の各既往報告で生息が確認されているが、池子の森自然公園の調査では水路と池から本種が確認された (逗子市,2015)。キンブナは神奈川県環境科学センター (2014) の調査で確認され、田越川が貴重な生息地であると考えられている。ドジョウは既往報告で確認されたが、観察会での出現は観られず、上流域での生息密度が高いように思われる。ホトケドジョウは、林 (1973) の報告以来 40 数年ぶりに、池子の森自然公園内で生息が確認された (逗子市,2015)。本種は、神奈川県内 25 河川の調査で、生息が確認されたのは 9 水系のみ (神奈川県環境科学センター,2014) のため、逗子市としても本種の保護・保全が課題であろう。このような現状のため、田越川に生息する在来種のうちギンブナ以外の 5 種を目にすることは困難と思われる。

しかし、田越川の在来種であるアブラハヤとモツゴの 2 種は、田越川と池子川の上流域などの人間と外来種の影響を受けにくい、ごく限られた水域で生き続けていると推察される。

在来種が存続できるような環境のあり方を模索して、次世代の市民に受け継がれればと考えている。



#### 4) 外来種

田越川水系に出現した外来種は 4 目 5 科 16 種ですべて純淡水魚であった (表 11)。その内訳は国内外来種が 9 種、国外外来種が 5 種、不明 2 種で、田越川は神奈川県内でも数多くの外来種が生息する水系である。

国内外来種のうち、オイカワの出現は 2005 年に池子川上流の観察会で、神奈川県横須賀土木 (2006) と萩原ほか (2008) が田越川本流で出現を確認、2012 年には目視調査で本種の産卵を東橋付近で観察した。ニゴイは 2008 年に萩原ほか (2008) が田越橋で、2010 年の目視調査で池子川合流点付近から、その後本流と久木川で頻繁に出現するのを確認した。オイカワは 1980 年代、ニゴイが近年国内の他所から移入されたと推定している (萩原ほか、2008)。また、ヒレナガゴイが東橋付近で確認されたが、成長し飼育が困難となり放流されたと思われる (図 14)。



オイカワの産卵

(2012/7/8 東橋)



ニゴイの産卵

(2011/4/17 池子川合流点)



放流されたヒレナガゴイ

(2012/3/25 東橋)

図 14 田越川水系の国内外来種 3 種 (小林撮影)

国外外来種のブルーギルとオオクチバスは、32 年前の 1985 年に久木大池で確認された (逗子市教育委員会, 1985)。その後同池で、2008 年に萩原ほか、2014 年には磯貝が目視調査で両種が大量に生息しているのを確認した (図 15)。

ブルーギルは、2007 年に出島が名越ため池で成熟メスと稚魚を捕獲、その繁殖を確認した。現在も久木大池と名越ため池で本種の生息を確認できるが、田越川の本流での出現は確認されていない。今後ともその出現がないことを願う。

オオクチバスの田越川本流での出現は、2010 年の目視調査で小林が体長 35 cm 位の個体を確認したのが最初である (図 15)。その後、2015 年 8 月に逗子橋付近で、また、2016 年 10 月には池子川合流点で全長 40 cm 位の個体を確認したので現在も数尾が生息していると推測される。出現した肉食魚のオオクチバスは、中流域に生息するコイ科、ハゼ科、アユ科の魚類にとっては大敵である。本種の移入経路を推察するのは困難であるが確認した個体が大きいため、生態系への影響を注視する必要がある。今後も観察を継続し生息状況の把握に努めたい。

ブルーギルとオオクチバスの 2 種は、出現水系で生息する在来魚や昆虫類を捕食し、その水系の生態系に大きな影響をおよぼすため特定外来種に指定されている。日本の在来種を捕食し、生態系を損ねたり、人体や産業に被害を与えたりする外来の生物を通称“外来種被害防止法”で「特定外来種」に指定し、規制・防除の対象として移動、放流、飼育等を禁止している。

ソウギョは 2006 年に神奈川県横須賀土木事務所（2015）の田越川環境調査で報告され、2011 年には目視調査で黒色と黄色個体の 2 尾を確認した。

ソウギョは草食性で水草や水辺の草を食べ、水草帯をすみかとする生きものに影響を及ぼすため「総合対策外来種」に指定されている。

観賞魚用に改良、固定化された黄色個体の幼魚が販売され、成長すると 1.5m 位に成長する。田越川で確認された本種は、大型化したので飼育できず放された個体と推察される。

2017 年末現在、清水橋～下田橋間の水域には、全長 80 cm 位の 2 尾が生息し、ヨシを食す行動が観察される(図 15)。

しかし、色コイと同様に黄色個体はきれいで見栄えはあるが、生態系に影響を与える国外外来種であることを忘れてはならない。



ブルーギル（鳥はカワウ）  
(2015/1/23 名越ため池)



オオクチバス（2010/9/26 下田橋）



オオクチバスとブルーギル  
(2014/9/26 久木大池 磯貝撮影)



ヨシを食べるソウギョ  
(2014/11/10 返子橋)

図 15 田越川水系の国外外来種 3 種(小林撮影)

林(1973)の調査では田越川水系からコイの生息は確認されていない。

逗子市教育委員会(1990)によると田越川には1976年5月にコイが500尾放流され、その後3年間に更に追加された。コイの寿命は長く、現在、田越川水系で見かける多数のコイは、野生の在来種のコイではなく、40年前に放流された改良種である。

出島(2008)は、放流30年後の2004年から2007年までの間、3回の目視調査を実施し571~784尾の個体を確認、放流時点とほぼ同数のコイが生息していた(表12)。

調査場所	コイの数		2007/4/7
	2004/11/21	2005/11/20	
仲町橋~田越橋	未カウント	未カウント	144
仲町橋	未カウント	未カウント	7
逗子橋	70	108	111
下田橋	2	20	19
柳原公園前	100	220	114
烏川橋	12	0	7
池子川合流点上流	0	0	16
桜山ゲートボール場前	30	50	61
向原橋	0	0	4
中原橋	50	34	41
中原橋上流	66	66	62
東橋	54	59	49
川端橋	90	30	53
川端橋上流	54	58	56
蓮沼橋下流	43	47	40
合計	571	692	784

\*出島(2008) 田越川さかな調査と観察会より引用

萩原ほか(2008)によると、田越川のコイは河川規模に比べ非常に多くの個体が生息し、他の生き物に対する食害や生息場所の破壊などの直接的な影響のほか、人の投餌が招く水質汚濁など間接的な影響も与えているという。

色鮮やかな改良種のコイの泳ぐ姿や投餌に集まる群に癒されると思う。しかし、それを目的に自然環境下の河川に人為的に生物を放流することは地域独自の生態系を攪乱することになることを忘れてはならない。

サケの遡上については、1985年に田越川水系で観察されたとの記載があるが詳細は不明である。翌1986年11月に死亡個体(体長70cm,雌)

性別・尾数	目視年月日	目視場所/出典先
不明・1尾	1985年	不明/環境ニュース14号(2006)*
雌・1尾	1986年11月1日	下田橋/木村他(1997)
不明・1尾	1995年10月12日	久木川川間橋/磯貝
雌・1尾	1995年11月6日	下田橋/木村他(1997)
不明・1尾	2003年11月3日	向原橋/環境ニュース14号(2006)
不明・1尾	2004年	東逗子バス停/環境ニュース14号(2006)
雌・1尾	2005年11月20日	向原橋/環境ニュース14号(2006)
不明・1尾	2005年10月22日	萩原他(2008)
不明・1尾	2005年10月26日	不明/読売新聞
雌・1尾	2006年1月6日	向原橋/環境ニュース14号(2006)
不明・1尾	2006年10月21日	不明/萩原他(2008)
不明・4尾	2009年11月11日	下田橋/神奈川新聞
不明・1尾	2009年11月23日	不明/朝日新聞
不明・1尾	2009年11月24日	池子川合流点/小林
不明・1尾	2016年2月23日	田越橋/忠鉢

\*環境ニュース: ずししかんきょうかいぎニュースの略

が、新聞報道されたが、1995年11月6日に下田橋で採集された個体(体長60cm,雌)が標本登録としての最初の記録である(木村ほか,1997)。

サケ遡上の情報を表13にまとめたが記載漏れがあると思われるので今後も情報の収集に努めたい。



(1995/10/12 久木川川間橋 磯貝撮影)



(2009/11/24 池子川合流点 小林撮影)

図16 田越川水系で目視されたサケ

## 5) 稀少種

田越川水系に出現した魚類 105 種のうち神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006 に記載された稀少種の出現は 3 目 6 科 16 種で、半数はハゼ科魚類であった (表 14)。

ミナミメダカの出現は 2005 年、2009 年、2011 年の観察会で、また、1972 年以降の既往報告 7 編でも確認されている。近年では 2012 年に目視調査で下田橋親水施設から、2015 年には神奈川県横須賀土木事務所の調査で本流での生息が確認された。一方、2015 年の池子の森自然公園環境調査で敷地内の水系から

目	科	和名	県RDB区分	
コイ	コイ	コイ	情報不足	
		キンブナ	絶滅危惧 I B 類	
		アブラハヤ	準絶滅危惧	
		ウグイ	準絶滅危惧	
		ニゴイ	絶滅危惧 II 類	
		ドジョウ	ホトケドジョウ	絶滅危惧 I B 類
ダツ	メダカ	ミナミメダカ	絶滅危惧 I A 類	
スズキ	タイ	キチヌ	情報不足	
		カジカ	カマキリ	絶滅危惧 I A 類
		ハゼ	チチブモドキ	情報不足
			ミミズハゼ	情報不足
		ボウスハゼ	準絶滅危惧	
		ウロハゼ	注目種	
		スミウキゴリ	準絶滅危惧	
		クロヨシノボリ	準絶滅危惧	
		ゴクラクハゼ	準絶滅危惧	
		3 目	6 科	16 種

ミナミメダカとホトケドジョウの生息が確認された。カマキリが 2016 年開催の田越川中流域の観察会で初めて確認された。ウグイは 2004 年の観察会とその 9 年後の 2013 年に目視調査で確認された 2 記録のみである。ニゴイは 2008 年以降頻りに観察された。しかし、田越川水系では国内外来種になるが、ウグイと同様に神奈川県内では稀少種とされている。

田越川水系にはホトケドジョウなど多くの稀少種が生息するので、その環境を維持し、保全施策などを模索して種の存続を図る必要がある。

## 6) 爬虫類 (カメ類)

観察会ではクサガメとアカミミガメの 2 種を (表 2)、目視調査ではクサガメ、アカミミガメ、リバークーター、ハナガメの 4 種を確認した (表 4、図 11)。しかし、田越川水系に生息していた在来種のニホンイシガメは確認できなかった。

カメ類の出現については中村 (1985) がイシガメを、鈴木 (1987) がイシガメ、アカミミガメの 2 種、逗子市教育委員会 (1990) がニホンイシガメ、クサガメ、アカミミガメ、ニシキガメの 4 種、出島 (2007) がニホンイシガメ、クサガメ、アカミミガメの 3 種の生息を報告している。天白ほか (2009) は三浦半島の 14 水系に生息する淡水ガメの調査を実施、田越川水系からクサガメ、ニホンイシガメ、クサガメとイシガメ交雑種、ハナガメ、アカミミガメ、スッポンの 6 種を確認している。在来種のニホンイシガメは、天白ほか (2009) が池子大池で確認した以後、田越川水系からの出現記録がない。

目視調査の資料と既往報告の出現種を集計すると田越川水系で確認されたのは 8 種 (ニホンイシガメ、クサガメ、クサガメとイシガメ交雑種、ハナガメ、ニシキガメ、リバークーター、アカミミガメ、スッポン) であった。在来種はニホンイシガメの 1 種、国内外来種はスッポン 1 種、国外外来種はクサガメ、ハナガメ、ニシキガメ、リバークーター、アカミミガメの 5 種、そしてクサガメとニホンイシガメの交雑種の 1 種であった。

天白ほか（2009）による三浦半島における淡水棲カメ類調査では、平作川に141個体、一番川に54個体、長沢川からは44個体が確認された。次いで田越川水系から42個体と4番目に多くの個体が確認され、そのうちアカミミガメが25個体と半数を占めていた。

この現状から久木大池、名越ため池を含めた田越川水系では、在来種のイシガメを見る機会は少なく、ほとんどが外来種のアカミミガメといっても過言ではない。アカミミガメは1950年代後半にペットとして輸入されたが、田越川水系では1987年に田越橋付近で甲長150mmの個体が初めて確認されている（鈴木,1987）。

小林はアカミミガメの求愛行動を2011年4月に下田橋で、2012年10月18日と2014年10月18日には池子川合流点付近で確認した。また、産卵行動を2014年9月23日に東橋付近で確認、14時4分から14時13分までの間に10卵を産出した行動を動画で記録した。さらに、2015年6月1日に子供が東橋付近で同種の幼体を捕獲したのを記録した（図17）。本幼体が田越川でふ化した個体か、または放流された個体かは定かでないが、適応能力の強いアカミミガメの繁殖が可能な環境であると考えられる。

春先の久木大池湖畔の岩上では甲羅干しするアカミミガメの幼体が観察されるので、同池でも繁殖していると推察される（図17）。久木大池と名越ため池でふ化した幼体が、水路を伝わり田越川へと移動することも考えられるので、池の排出口に防御網等を設けアカミミガメ等の移動を阻止する方策が必要と思われる。



求愛行動中のアカミミガメ(下雄)  
(2012/10/16 下田橋)



産卵中のアカミミガメ  
(2014/9/23 東橋)



アカミミガメの幼体  
(2015/6/1 東橋)



アカミミガメの幼体  
(2014/9/26 久木大池磯貝撮影)

図17 田越川水系で目視されたアカミミガメの生態（小林撮影）

また、池子の森自然公園の池では、市民への一般開園以前にアカミミガメが確認された（逗子市,2015）。早期の対策が必要なエリアではなかろうか。

小林は2010年～2013年の間、田越川のアカミミガメの生息数を調べた結果、中流域で約20頭を確認した（表15）。生態系に悪影響を与える外来種を定期的に調査し、田越川水系に生息するカメの種類及び個体数などを把握する必要がある。

調査場所	アカミミガメ生息数					
	2010/11/1	2012/9/30	2012/10/6	2013/5/9	2013/6/6	2013/6/17
武道橋～馬場橋	-	-	-	-	3	-
馬場橋～蓮沼橋	-	-	-	-	-	5
蓮沼橋～中原橋	-	1	-	-	-	-
中原橋～池子川合流点	-	-	2	-	-	-
池子川合流点～下田橋	15	-	14	-	-	4
下田橋～清水橋	4	-	4	-	-	6
清水橋～田越橋	-	-	-	2	-	-
合計	19	1	20	2	3	15

\*小林による目視調査

### 7) 節足動物（エビ・カニ類）

観察会では、中流域で14種、河口域で25種を確認した。中流域では低感潮域の下田橋親水施設付近で岩浜に生息する海産性のイソガニを確認したが、他種はすべて淡水産だった。特にクロベンケイガニ、モクズガニ、ヒラテテナガエビ、ミナミテナガエビが数多く出現した。

河口域の種は全て海産種であった。

カニ類については蒲生(1965)が19種、逗子市教育委員会(1990)が13種の生息を確認したが、護岸整備のためアカテガニ、クロベンケイガニ、ベンケイガニの生息場所は狭められているとすでに報告している。



図 18 久木川のアカテガニとベンケイガニ

また、田村(1999)は田越川から十脚甲殻類36種を採集、アカテガニは渚橋から下田橋、ベンケイガニは田越橋付近、アシハラガニは田越橋から仲町橋、そしてハマガニが富士見橋から久木川合流点付近に生息していたと報告している。

(2011/9/17 磯貝撮影)

1960年代後半の田越川水系ではアカテガニとベンケイガニの群棲が普通に見られたが、2011年に久木川で小集団を観察した以降、群棲は確認されない（図18）。夏季にはアカテガニの若い個体を久木川水域で見かけるが、他水域での出現状況は情報不足のため、聴き取り調査を実施し、生息状況の把握に努めたい。目視調査では、河口域から中流域にかけて、多数のクロベンケイガニとモクズガニが生息するのを確認している。

干潮時の砂泥地には、河口付近～清水橋間でチゴガニとコメツキガニが、清水橋～久木川合流地点間ではヤマトオサガニが群棲していた。しかし、浚渫工事等で砂泥地が狭められ、個体数は減少の傾向をたどっていると思われる。

河口域の干潟や洲を生息の場とするいわゆる掃除屋的存在の節足動物や環形動物等の減少は、河口域の浄化の不活性化を起こし、逗子湾に流入する河川水に悪影響を与えることを忘れてはならない。

#### 4 岩浜海岸（磯）

葛ヶ浜の岩浜海岸（磯）の観察会で確認した種類は、9 動物門 114 種で、主な動物の門別の割合は、節足動物 33 種（28.9%）、軟体動物 32 種（28.1%）、魚類 28 種（24.6%）であった。

この岩浜海岸の調査は 1987 年に鈴木が実施、海綿動物 2 種、刺胞動物 17 種、環形動物 15 種、節足動物 63 種、軟体動物 201 種、棘皮動物 17 種を報告しているが、その後この海域の詳細な調査は行われていない。

近隣海域の横須賀市の天神島岩礁の潮間帯では、9 動物門 105 種（萩原ほか,2004）、江の島の潮間帯では 11 動物門 178 種（植田ほか,2013）の報告がある。

逗子湾の岩浜海岸は、既往報告の調査海域と同じ相模湾沿岸流の影響を受けるため、計画的な調査を実施すればさらに多様な種が記録されるものと考えられる。

葛ヶ浜の岩浜海岸（磯）は、生物の多様性に富んだ宝庫で、生物学的にも貴重な海域環境である。その一方で岩礁地帯は、逗子市民のレクリエーションと教育の場としても親しまれている。

しかし、2006 年にはイガイ科の貝が不如帰碑周辺の岩場の表面に出現した。2014 年にはその大群棲が大崎付近から小坪側まで拡大した。この貝は高い密度で集団をつくり他の生きものの生活範囲を奪うため、岩の表面を生活の場とする動物や海藻の種類や生息量に影響を与える（図 19）。このため、継続的に観察を実施しその影響を調査する必要がある。

一般に岩浜海岸の潮間帯の岩場には多少の砂が堆積することはある。しかし、葛ヶ浜の潮間帯の岩場の表面や間隙には、2005 年頃から砂の堆積が目立ち始め、同時期の観察会からは、砂泥地を生息地とする種類の出現が認められた。

出現種としては、本来河口付近の砂泥底に生息するヤドカリの仲間のコブヨコバサミが 2006 年以降毎回出現（図 20）、2014 年には砂地に生息するヒトデの仲間のモミジガイ（図 21）や 2016 年には砂泥底に住むスジホシムシモドキを確認した。また、岩礁のくぼみには、2014 年頃から海草のアマモが繁茂している（図 22）。

逗子湾内の潮流等の微妙な変化であろうか葛ヶ浜の潮間帯の岩場には、砂が長い年月をかけて運ばれ堆積し、砂質化しつつあるように思える。観察会で確認された砂場に棲む生きものは、その環境の変化を敏感にキャッチし、進出を始めている兆候ではなかろうか。

環境の変化は徐々に進行し変貌する。海中で運ばれる砂の状況を目視調査だけで把握するのは困難を要する。しかし、砂泥地を主な生息地とする生きものが岩浜域に進出し、観察会で頻繁に確認できる現状を見逃す訳にはいかない。

現在、葛ヶ浜の岩浜海岸に堆積した砂は、我々の肉眼でも十分確認できる状態になりつつある。我々人間が感知できるのは、環境の変化がかなり進行した状態にあることを忘れてはならない。



図 19 岩盤上を覆うイガイ科の貝  
(2006/7/14 磯貝撮影)



図 20 コブヨコバサミ  
(2014/6/14 大谷撮影)



図 21 モミジガイ  
(2015/5/17 磯貝撮影)



図 22 岩礁のアマモ  
(2014/6/14 大谷撮影)

多様性に富む逗子湾、そこに生息する小さな生きものの変化は環境の悪化を警報する発信と受け止める必要がある。

素晴らしい景観の逗子の海岸域は、徐々にその環境が変貌しつつある。その進行状況を継続的に観察し、その背景を調査する必要があるように思われる。

### おわりに

田越川は海底から隆起した基盤に諸々の活動が加わり、やがて堆積した土地に雨が降り、その雨水の流れ道として造り上げられた自然の河川である。長い歴史的な経過の結果、田越川に侵入した種は、物理的な環境に適応し競争の中で進化し、多様な生態系を創り出している。

現在、市民が観察できる田越川の在来魚は長い歴史の間、種存続の使命を全うするため懸命に生きてきた子孫たちである。

一方、在来種に影響を与える外来種は、他の地域から持ち込んだり、飼育していたものが逃げ出したり、捨てたりしない限り、出現することは決してない。



外来種は、一見在来種と共存しているかのように見える。しかし、水中では徐々に生態系のバランスを遷移し、陸上にいる我々が気づいた時には水中の環境は不自然な状態になっている。自然河川の生態系に影響を及ぼさない管理が行き届いた個人の池などであれば、改良種等を放養し、安らぎを得ることは何ら問題ではない。しかし、自然が形成した生態系を自然と人間の深い係りに思いを至らせず人間のエゴで軽々に変えてしまっていていいものであろうか。消滅した種は、二度と復元することはできない。

田越川は過去に市街地を造成するため流路を変更したり、治水事業のために護岸は人工構造物で整備されてはいるが、河道内の状態は自然河川とほぼ同様な環境に維持・保全されている。流れる水は、かつては生活排水で汚染していたが今では下水道の整備や豊かな山の緑と市民の協力により水質の環境基準値は改善している。

しかし、観察会と既往の研究成果を基に、田越川水系の動物相の現状を考慮すると外来種の進出と増加が最大の課題として挙げられる。一度拡がった外来種の排除対策は、種々の問題と多大な労力を要する。

環境省は生態系の被害防止のため、外来種を人為的に「入れない」、飼育している外来種を「捨てない」「逃がさない」、生息してない地域に「広げない」の三原則を守るように強く求めている。

田越川水系の外来種を今以上に増やさないためには、市民と行政が一体化し、外来種の正確な知識と現状を把握しながら、その情報を発信するなどの教育普及活動を実施し、啓発に努める必要がある。

一方、ホトケドジョウやミナミメダカなどの稀少種、また、未記録の種も出現するなど、田越川水系は逗子の貴重な財産である。

当部会の実践活動は、市民が企画、市民が参加して各種データを集積した。得られたデータを集計したところ、市内の水界を住居とする生きものの過去から現在に至るまでの歴史を知ることができた。

田越川にオオクチバスなどの外来種が出現し、また、逗子湾の西側に広がる美しい岩浜海岸が砂質化しつつある状況などの新たな知見を得ることもできた。

市民が集計したデータの成果を市民へフィードバックして、多くの問題点を市民と共有するのが本報告書の目的である。生きものの微妙な変化は、彼らからの貴重な発信である。市民が集積した貴重なデータが未来の環境対策に寄与できればと願う。

逗子市の自然は貴重である。自然豊かな現状を維持し、次世代の人々に多様性に富んだ素晴らしい逗子の自然を引き継ぐことが在住市民の一人ひとりに課せられた大切な責務ではなかろうか。

## 要 約

1. 市民が企画、市民が参加した観察会を 14 年間、延べ 32 回実施した。その間に蓄積した資料と既往の研究成果を併せて集計したところ、若干の知見を得たので実践活動報告書としてまとめた。
2. 田越川水系の観察会で確認した種類は、中流域では軟体動物 3 種、節足動物 14 種、魚類 23 種、爬虫類 2 種。河口域では軟体動物 5 種、節足動物 25 種、魚類 35 種であった。
3. 田越川水系の目視調査で確認した種類は魚類 19 種、爬虫類 4 種であった。
4. 中流域で確認した魚類は、観察会で 7 目 9 科 23 種、目視調査で 8 目 12 科 19 種、合計 8 目 14 科 34 種であった。
5. 河口域の観察会で確認した魚類は 6 目 20 科 35 種であった。
6. 中流・河口域の観察会（目視調査含む）で確認した魚類は 11 目 28 科 61 種であった。
7. 田越川水系に関する過去の既往報告を集計したところ、田越川で確認した魚類は 12 目 35 科 84 種であった。
8. 観察会（目視調査含む）と既往報告の出現魚類を集計したところ、田越川水系全体で 14 目 43 科 105 種を確認した。そのうちハゼ科が 29 種（27.6%）、次いでコイ科が 14 種（13.3%）、フグ科が 5 種（4.8%）でハゼ科の魚類が 1/4 を占めた。
9. 田越川水系全体に出現した魚類 105 種を生活史型で分類すると純淡水魚が 4 目 6 科 22 種、通し回遊魚が 3 目 4 科 20 種、周縁魚が 10 目 34 科 63 種で、田越川全水系に出現する魚類の半数は周縁魚であった。
10. 田越川の純淡水魚は 22 種で全出現魚類の 21.0% と少なく、その内訳は在来種 6 種、外来種 14 種、不明 2 種で、在来種より外来種が多くを占めた。
11. 在来種であるアブラハヤ、モツゴ、ドジョウは池子川上流の限られた水域に生息しているものと推測される。
12. 外来種の中で、肉食性のオオクチバスが田越川本流で確認された。今後の動向を注意深く観察する必要がある。
13. 自然河川である田越川に人工改良種のコイが多数生息することは、田越川の生態系を攪乱し、また、コイなどへの投餌行動は河川水の汚濁の一因と推察される。
14. 希少種のアトケドジョウとミナミメダカが池子の森自然公園の水域で生息が確認され、生息地の現状維持と保全が望まれる。
15. 田越川水系全体のカメ類は 8 種が出現、在来種 1 種、外来種 6 種、交雑種 1 種であった。市民が見ているカメ類は、アカミミガメなどの国外外来種が多くを占める。

16. 田越川本流の河道内でアカミミガメの産卵が初めて確認された。久木大池では同種の幼体が多く観察され、繁殖の可能性が推察される。
17. 田越川水系に外来種を今以上に増やさないため、正確な知識と情報を発信し教育普及活動を推進する必要がある。
18. 田越川河口域からは南洋系魚類や既往報告で未記録種の出現が確認されている。沖合水や海水温の変動等による南洋系魚類の消長が考えられるため、継続的な調査を実施し、資料の収集に努める必要がある。
19. 田越川水系でかつては観察できたベンケイガニ科のアカテガニやベンケイガニは確認できず、クロベンケイガニとモクズガニが多く出現した。
20. 河口域の干潟で浄化に貢献する、スナガニ科の種の出現が減少している。
21. 葛ヶ浜の岩浜海岸(磯)の観察会で確認した種類は、刺胞動物 1 種、扁形動物 2 種、紐形動物 1 種、環形動物 1 種、星口動物 1 種、軟体動物 32 種、節足動物 33 種、棘皮動物 15 種、魚類 28 種。藻類 22 種、海産種子植物 1 種であった。
22. 岩浜海岸(磯)の観察会で確認した 9 門 114 種の動物の主な割合は節足動物 28.9%、軟体動物 28.1%、魚類 24.6%であった。
23. 岩浜海岸(磯)の岩場の表面には、イガイ科の貝が出現し、大群棲を形成しつつあるため今後の生息状況を継続的に観察する必要がある。
24. 岩浜海岸(磯)は、砂の堆積が肉眼でも確認できる状況になり、本来砂浜に生息しているコブヨコバサミ、モミジガイ、スジホシムシモドキが頻繁に出現、また、砂が厚く堆積した岩礁の間隙には海草のアマモが繁茂している。
25. 葛ヶ浜の岩浜海岸(磯)が砂質化しつつあることが見て取れるため、砂の堆積状況と出現種との関係を継続的に観察し、同時にその背景を専門機関で調査する必要がある。

## 謝 辞

各種観察会を実施するにあたり、指導および採集生物の解説を賜った講師の横須賀市自然・人文博物館 萩原清司氏、神奈川県環境科学センター 齋藤和久氏、元葉山しおさい博物館館長 池田等氏、葉山しおさい博物館 倉持卓司氏、NPO 法人三浦半島生物多様性保全 天白牧夫氏の諸氏に厚くお礼申し上げます。

本報告書をまとめるにあたり、助言を賜った講師の諸氏と元横須賀市自然・人文博物館館長 林 公義氏に、また資料の提供をいただいた神奈川県横須賀土木事務所 三善泰雄氏と吉田裕一氏に深謝申し上げます。

## 文 献

- 出島誠一 2007. 名越谷戸の自然. 名越谷戸調査会編. 名越自然環境基礎調査調査報告書 : 30-31 .
- 出島誠一 2008. 田越川さかな調査と観察会. 第14回市民環境活動報告会講演要旨集:9-12, 第14回市民環境活動報告会実行委員会.
- 土肥昭夫 1975. ヒトデの摂餌生態(予報) 2. 野外におけるモミジガイ類の食性と餌サイズに対する選択性. ベントス研連誌, (9/10) : 1-11.
- 蒲生重男 1965. 河口産のカニ類の種類と分布について. 甲殻類の研究, (2) : 91-101.
- 蒲生重男・小酒井英一 1991. 相模湾北部と東京湾西部の河川域に生息するカニ類の種類と生態について. 横浜国立大学教育学部付属理科教育実習施設研究報告, (7) : 25-38.
- 後藤 晃 1987. 淡水魚類、生活環からみたグループ分けと分布域. 水野信彦 後藤 晃編、日本の淡水魚—その分布・変異・種分化をめぐって: 2-15. 東海大学出版会.
- 萩原清司 1990. 森戸川の魚たち. 葉山しおさい博物館. 潮騒だより, (1) : 4-6.
- 萩原清司・齋藤和久 1999. 森戸川感潮域で採集された魚類. 神奈川自然誌資料, (20) : 69-74.
- 萩原清司・山本健一郎・田中雅宏 2004. 横須賀市天神島臨海自然教育園の岩礁性潮間帯動物相. 横須賀市博研報(自然), (51) : 38-45.
- 萩原清司・齋藤和久・出島誠一・五十嵐大介 2008. 逗子市田越川水系の魚類. 横須賀市博研報(自然), (55) : 11-22.
- 萩原清司・長谷川孝一 1990. 葉山柴崎周辺の沿岸魚類. 神奈川自然誌資料, (11) : 103-110.
- 林 公義 1973. 三浦半島の淡水魚類(三浦半島淡水魚調査報告). 横須賀市博研報(自然), (20) : 18-40.
- 林 公義 1976. 三浦半島の淡水魚類(三浦半島淡水魚調査報告・II). 横須賀市博研報(自然), (22) : 29-41.
- 林 公義・長峯嘉之 1981. 三浦半島淡水魚調査追加記録と一考察. 神奈川自然誌資料, (2) : 23-28.
- 林 公義・石原龍雄・君塚芳輝・長峯嘉之 1984. 神奈川県淡水魚類分布資料・II. 横須賀市博研報(自然), (55) : 11-22.
- 林 公義 1989. 神奈川県淡水魚分布資料(V) 横須賀市博研報(自然), (37) : 99-100.
- 林 公義・浜口哲一・石原龍雄・木村喜芳 1989. 神奈川県の帰化魚類. 神奈川自然誌資料, (10) : 43-64.

- 今原幸光・有山哲之・石田 惣・伊藤勝敏・大谷道夫・竹之内孝一・鍋島靖信・波戸岡康峰・花岡皆子・山西良平 2011. 写真でわかる磯の生き物図鑑, 269pp. トンボ出版.
- 金川直幸 1988. 静岡県の河口域魚類. 神奈川自然誌資料, (9) : 1-13.
- 神奈川県環境科学センター 2014. 神奈川県内河川の魚類. 神奈川県環境科学センター, 137pp.
- 神奈川県横須賀土木事務所 2015. 田越川 自然環境について. 八千代エンジニアリング株式会社, 13pp.
- 神奈川県 2016. 田越川水系河川整備基本方針. 神奈川県土木整備局河川下水道部河川課, 7pp.
- 川那部浩哉 1987. フィールド図鑑淡水魚, 186pp. 東海大学出版会.
- 川那部浩哉・水野信彦 1989. 日本の淡水魚, 720pp. 山と溪谷社.
- 川那部浩哉・水野信彦監修 2013. 河川生態学中村太士編, 354pp. 講談社.
- 木村喜芳・萩原清司・中根基行 1997. 神奈川県産淡水魚 5種の分布に関する新知見. 神奈川自然誌資料, (18) : 79-82.
- 北原佳郎 2008. 神奈川県におけるタネハゼおよびクロコハゼの初記録. 神奈川自然誌資料, (29) : 129-132.
- 楠田哲士・原田旬美・吉川晶子・安積修平・賀古智哉 2012. 岐阜市柳戸地区におけるミシシippアカミミガメの野外繁殖の確認例. 爬虫両棲類学会報, (2) : 131-133.
- 三根加奈子 2016. 神戸市西区岩岡町のため池、河川周辺におけるアカミミガメ卵発見事例. 亀楽(神戸市立須磨水族館), (13) : 14-15.
- 三根加奈子・河南崇司・谷口真理 2013. ミシシippアカミミガメの繁殖確認事例. 亀楽(神戸市立須磨水族館), (6) : 14-15.
- 三井翔太・手良村知功・三井 修 2017. 下山川水系の魚類相について, 神奈川自然誌資料, (38) : 67-76.
- 蓑宮 敦・安藤 隆 2008. 相模川と中津川の魚類相(1993-2005). 神奈川県水産技術センター研究報告, (3) : 1-24.
- 望月貴文・天野邦彦 2012. 河川水辺の国勢調査結果を利用した魚類出現特性による全国一級水系の類型化及び分析. 河川技術論文集, (18) : 1-6.
- 中峰早織・澤邊久美子・谷口真理 2011. イシガメのアカミミガメに対する愛行動について. 亀楽(神戸市立須磨水族館), (2) : 6.
- 中村一恵 1970. 相模湾沿岸のタイドプールの魚類. 神奈川県立博調報(自然科学), (1) : 1-13.
- 中村一恵 1981. ミシシippアカミミガメの野生化について. 神奈川自然誌資料, (4) : 41-42.
- 中村一恵 1985. 神奈川県下における淡水ガメ類の目撃および最終記録(1984~1985). 爬虫類両生類雑誌, 12 (5/6) : 47-48.

- 中坊徹次(編) 2013. 日本魚類検索—全種の同定 第三版 1818pp. 東海大学出版会
- 日本自然保護協会 2014. 「自然調べ 2013 日本のカメさがし！」報告書. 日本自然保護協会資料集(53), 26pp.
- 西榮二郎 2004. 鎌倉・逗子海岸の干潟に産する多毛類(環形動物門) 神奈川自然誌資料, (25): 47.
- 野田英樹 2004. 河北潟におけるアカミミガメ野外繁殖. 河北潟総合研究, (7): 17-19.
- リバーフロント整備センター 2007. 水辺のかがやき 平成18年度「川を学ぶ」活動事例集, 116pp.
- 齋藤和久・林 公義 1999. 森戸川(三浦半島)におけるヨシノボリ類の分布様式個体数増減. 神奈川自然誌資料, (20): 65-78.
- 齋藤和久・金子裕明・勝呂尚之 2010. 相模川水系の魚類相. 神奈川自然誌資料, (31): 59-68.
- 齋藤和久・金子裕明・勝呂尚之・大竹哲男 2012. 神奈川県内河川におけるヨシノボリ属魚類の分布. 神奈川自然誌資料, (33): 85-93.
- 齋藤和久・金子裕明・勝呂尚之 2012. 酒匂川水系の魚類相. 神奈川自然誌資料, (33): 103-112.
- 齋藤和久・萩原清司・出島誠一 2017. 三浦半島から採集されたカマキリ(アユカケ)(スズキ目・カジカ科). 横須賀市博研報(自然), (64): 31-34.
- 鈴木 大 2015. ニホンイシガメとクサガメの異種間交雑. 亀楽(神戸市立須磨水族館), (10): 1-5.
- 鈴木 博 1987. 逗子における川・溜池の動物. 逗子市史別編 自然編:253-269 逗子市教育委員会.
- 瀬能 宏 2008. 外来魚の法規制. 瀬能 宏・松沢陽士(編) 日本の外来淡水魚ガイド: 17-21. 文一総合出版.
- 瀬能 宏 2008. どうする? どうなる! 外来種, とりもどそう私たちの原風景, 神奈川県立生命の星・地球博物館展示解説書: 38-40.
- 瀬能 宏・水沢陽水 2008. 日本の外来魚, 157pp. 文一総合出版.
- 高桑正敏・勝山輝男・木場英久(編) 2006. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 442pp.
- 田村俊一 1999. 逗子田越川で採集されたチチュウカイミドリガニ. 神奈川自然誌資料, (20): 81-84.
- 谷口真理・亀崎直樹 2010. 大阪平野淀川支流の船橋川に生息するカメ類. 爬虫両棲類学会報, (2): 105-110.
- 谷口真理・三根佳奈子・亀崎直樹 2013. 西日本に生息するミシシippiaアカミミガメのメスの成熟サイズと産卵期. 爬虫両棲類学会報, (2): 86-91.

- 天白牧夫・大沢哲志・勝野武彦 2009. 三浦半島における淡水棲カメ類の種組成と生息関係の関係. ランドスケープ研究, 72(5) : 547-552.
- 植田育男・萩原清司・伊藤寿茂・北嶋 円・村石健一 2013. 江の島の潮間帯動物相-VI. 神奈川自然誌資料, (34) : 25-32.
- 植田育男・萩原清司 1992. 江の島のタイドプールで観察された魚類. 神奈川自然誌資料, (13) : 29-38.
- 山川宇宙・瀬能 宏 2015. 神奈川県河川におけるカワアナゴ属魚類の分布. 神奈川自然誌資料, (36) : 63-68.
- 山川宇宙・瀬能 宏 2016. 神奈川県河川で記録された2種の外来種. 神奈川自然誌資料, (37) : 41-43.
- 山川宇宙・瀬能 宏 2016. 相模湾流入河川及び沿岸域で記録された注目すべき魚類16種. 神奈川自然誌資料, (37) : 44-52.
- 山川宇宙・坪 健人・酒井 卓・三井翔太・瀬能 宏 2017. 相模湾とその周辺地域の河川および沿岸域で記録された注目すべき魚類5種. 神奈川自然誌資料, (38) : 77-82.
- 山本健一郎 2000. 三浦半島の淡水産テナガエビ科エビ類の分布. 横須賀市博研報(自然), (47) : 59-66.
- 山本健一郎 2003. 三浦半島のヌマエビ科エビ類の分布. 横須賀市博研報(自然), (50) : 43-50.
- 逗子市 2015. 池子の森自然公園環境調査 調査結果の概要. 逗子市, 24pp.
- ずしし環境会議(エコリーダーズ会議) 2006. 田越川のサケ. ずししかんきょうかいぎニュース, 第14号 : 3. 逗子市環境部環境管理課.
- ずしし環境会議まちなみと緑の創造部会(編) 2006. 田越川さかな図鑑(簡易版).
- ずしし環境会議まちなみと緑の創造部会(編) 2008. 田越川ガイド生き物編 I.
- 逗子市教育委員会(編) 1990. 逗子市の水生生物. 逗子市文化財調査報告書 第13集 : 24-30.

## まちなみと緑の創造部会の実践活動の趣旨

逗子市の環境をより良くしていくための計画である逗子市環境基本計画に基づき、2001年に市民、事業者、市の協働活動組織としてずしし環境会議が発足した。そのなかには「まちなみと緑の創造部会」、「二酸化炭素削減部会」、「ゴミ問題部会」の部会がありそれぞれ毎月一回の定例会をベースに様々な活動を行っている。

「まちなみと緑の創造部会」（以下当部会と称す）は市内の豊かな自然環境と景観を次世代に引き継ぐため、自分たちが取り組み、市や市民と協働して次の項目を活動目標とし実践している。

- 1、まちなみと緑の創造に向けて、共に行動する組織づくりを推進する。
- 2、市民が緑に親しむ場づくりを推進する。
- 3、川や海などの水辺の自然に親しめる空間づくりを推進する。

この目標に基づき当部会では「逗子の自然環境を次世代にどのように伝えるか」をテーマに下記の様々な活動を精力的に実践してきた。

### 1、各種観察会の開催

#### 1) 川や海の生きものの調査や観察会、さかな図鑑の作成

2003年の田越川のさかなウォッチングから、現在は田越川中流域、河口、逗子湾の磯の三か所で専門の講師を招き毎年観察会を実施している。

#### 2) 植物観察会

2012年から樹木医の資格を持つ当部会員が講師となり、市内各所で年2回実施している。

#### 3) 昆虫観察会

2008年から名越里山緑地で専門の講師を招き、年2回実施している。

### 2、名越里山緑地の保全、管理

市内唯一残された里山の原風景を復元するため、2003年から市に協力し作業を行ったが、アダプト制度の移行に伴い2005年から「逗子名越緑地里山の会」に属し、主に湿地の管理を実施している。

### 3、学校への出前授業、地域ふれあい展への出展

逗子市内小中学校に出向き総合授業の手伝いを実施、また「学校へ行こう週間」にあわせ校内に「逗子の生きもの写真展」などを実施している。



- 4、環境会議展、市民まつり、子どもフェスティバル等のイベントに参加  
環境会議展では部会の活動などを紹介、市民まつりでは市内でみられる自然素材を活用した楽しい催しを開催。また、2011年からは子どもフェスティバルに参加、「逗子の生きものの写真展」と「自然素材を取り入れた万華鏡」づくりになど積極的に参加している。
- 5、ハイキングコース「やまなみルート」の整備や市内のまち歩きイベント  
久木大池から池子丘陵を巡り六浦に至る林間コースで、下草刈りや道標の整備を実施している。
- 6、環境連続講演会の企画・立案  
毎年逗子市役所と共催し、講演会のテーマの提言や講師の推薦、ポスター作成など企画・立案を行っている。
- 7、ずししかんきょうかいぎニュースの発行  
市の支援を受けて、ずしし環境会議の他部会と協力し、市民に活動状況や環境活動を発信、啓発に努めている。

まちなみと緑の創造部会は、発足以来一つの活動目標として「川や海などの水辺の自然に親しめる空間づくりを推進する」ことを掲げている。その実践活動として、次世代を担う子どもたちを対象に「逗子の身近な自然にはどんな生き物たちが暮らしているかを調査すること」を目的に観察会を実施している。

2003年から「田越川ウォッチング」と称し、田越川とその支流の観察を、翌2004年からは「葛ヶ浜の磯観察」を、その後「田越川河口域」などで定期的な観察会を開催継続してきた。

観察会を開催して早や14年、参加した子供たちはすでに20代に達し、社会で活躍していることであろう。自ら採集したかわいい小さな生きもの、その暮らしていた環境など、楽しく学んだ観察会の思い出は今も心の端に刻まれていると思われる。そして、多様な生きものが暮らす価値ある逗子の環境を維持する大切さを後世に伝えてくれることと思っている。

一方、部会が実施している「田越川水系」、「磯」、「植物」、「昆虫」等の観察会や実践活動の実施記録には、その地域で暮らす生きものの貴重な資料等が蓄積されている。また、当部会員による日常の目視観察や写真などの記録資料も多数集積されており、逗子市の自然の現況や課題の把握に役立つことが期待される。

参考資料－２

まちなみと緑の創造部会の活動年表(河川・磯関係)	
2001年3月31日	ずしし環境会議(エコリーダーズ)正式発足
2001年11月17日	沼間中学校で公開授業
2002年1月1日	ずしし環境会議ニュース 創刊号発刊
2002年3月9日	第一回かんきょう連続講演会 横須賀市自然・人文博物館 大場義信氏 「身近な生き物に触れあえる町づくり」ホテルを指標とした人里保全・再生」
2002年6月3日～7日	環境パネル展 田越川の生きもの(魚・エビ)水槽展示
2002年10月20日	市民まつり 田越川の生きもの水槽展示
2003年	「田越川ウオッチングー1」と称し観察会を開催
2003年6月16～20日	環境パネル展 逗子開成中学校生徒による「田越川の水質調査」を発表
2003年10月19日	市民まつり田越川の生きもの(アユ・オイカワ)の水槽展示
2004年3月1日	「水辺環境マップ」づくり
2004年10月24日	市民まつり大崎の磯、田越川の生きものパネル展示
2004年6月5日	磯(葛ヶ浜)の観察会
2004年11月21日	田越川観察会 清水橋～東逗子コイの尾数を調査
2005年6月5日	新宿地区青少年育成推進の会との共催で「磯の生きものウオッチング」を開催
2005年6月13日～17日	ずしし環境会議展 田越川の生きもの水槽を展示
2005年10月22日	第一回「田越川さかな調査」を丸山病院裏で県環境科学センターと 横須賀市自然・人文博物館の協力を得て実施
2005年11月20日	「田越川ウオッチング」を中流域で実施
2005年12月25日	「田越川ウオッチング」を上流域で実施
2006年1月29日	「田越川ウオッチング」を池子川流域で実施
2006年3月25日	かんきょう連続講演会 横須賀市自然・人文博物館 林公義氏 「田越川・・・自然環境との関わり方」
2006年5月17日	逗子高校「さかな調査」池子川上流域で実施
2006年5月21日	田越川観察会「オイカワの春」を中流域で実施
2006年6月24日	磯(葛ヶ浜)の観察会
2006年6月30日	久木中学校出前授業「"川"について」
2006年8月27日	田越川観察会「田越川のアユ」を中流域で実施
2006年10月	2005年10月～2006年8月末まで田越川の魚類の調査4回と観察会を3回実施 2006年度の田越川調査と観察会は(財)リバーフロント整備センター の活動助成による
2006年10月21日	田越川さかな観察会「川が海に出会う河口の魚を観察しよう！」
2006年10月22日	「田越川さかな図鑑(簡易版)」の発刊

2007年3月4日	かんきょう連続講演会 相模湾海洋生物研究会 萩原清司氏 「さかな調査から考える田越川」
2007年4月7日	田越川ウォッチング「田越川を歩きながらコイの数を数えよう」
2007年6月2日	磯(葛ヶ浜)の観察会
2007年6月9日	田越川アドベンチャー「川の中をジャブジャブ歩いて魚を観察しながらクイズに挑戦」
2007年8月26日	田越川河口「さかな観察会」渚橋で開催
2007年10月21日	市民祭りで田越川の生き物を展示
2007年11月4日	横須賀博物館フォーラム「三浦半島の河川の自然」で発表
2007年11月11日	田越川さかな観察会「エビに注目してみよう」
2007年12月	(財)リバーフロント整備センターの活動助成による活動事例集へ発表 平成18年度「川に学ぶ」…「身近な川とふれあう機会」
2008年2月17日	第14回市民環境活動報告会(神奈川県及び3市民団体共催)で 「田越川さかな調査と観察会」を講演
2008年	「田越川さかな観察会」が一昨年から5回開催され、地域の子どもたちが歓声を上げ、時間を忘れて魚採集に熱中した
2008年3月2日	かんきょう連続講演会 海洋生態学研究センター 倉持卓司氏 「ウミガメのかえる逗子海岸」
2008年4月1日	「田越川ガイド 生き物編 I」発行無料配布
2008年5月24日	磯(葛ヶ浜)の観察会
2008年6月8日	田越川中流「さかな観察会」池子川合流点で開催
2008年6月9日～13日	環境会議展「田越川さかな観察会」の報告展示を実施
2008年8月30日	田越川河口「さかな観察会」渚橋で開催
2008年10月13日	田越川中流「さかな観察会」池子川合流点で開催
2009年5月30日～31日	逗子文化プラザグランドオープン記念イベントで「田越川の魚たちの展示」
2009年6月20日	沼間中学校1年生「水と川」と題し、出前授業
2009年6月26日・7月3日	久木中学校2年生出前授業「田越川の生き物はどのように変化してきたか」授業と実習
2009年6月27日	田越川中流「さかな観察会」池子ゲート前で開催
2009年8月21日	逗子中学校出前授業「学校内の川の生き物(池子川上流)調査体験」
2009年8月23日	田越川河口「さかな観察会」渚橋で開催
2009年10月18日	田越川中流「さかな観察会」池子川合流点で開催
2010年3月6日	かんきょう連続講演会 神奈川大学理学部 浜口哲一氏 「トコロジストになろう！」～自然観察会で育む地域の自然～
2010年7月9日	久木中学校2年生出前授業「田越川と近隣河川の水質について」
2010年8月29日	田越川河口「さかな観察会」渚橋で開催
2010年10月24日	田越川中流「さかな観察会」池子川合流点で開催
2010年12月13・14日	逗子小学校5年生出前授業 「私たちの暮らしと環境 身近な自然を見つめよう」

2011年1月28日	沼間中学校1年生出前授業「田越川フィールドワーク」
2011年3月6日	かんきょう連続講演会 葉山しおさい博物館館長 池田等氏 「海を中心とした逗子葉山の生物多様性」
2011年5月21日	田越川中流「さかな観察会」池子川合流点で開催
2011年6月5日	磯(葛ヶ浜)の観察会
2011年8月28日	田越川河口「さかな観察会」渚橋で開催
2011年12月9日	逗子中学校出前授業「田越川から”川”を考えよう」
2012年6月3日	磯(葛ヶ浜)の観察会
2012年6月19・26日	久木中学校2年生出前授業「田越川の生きものと水質について」
2012年6月29日	小坪小学校2年生出前授業「生きものウォッチングと環境」
2012年7月22日	田越川中流「さかな観察会」延命寺親水公園で開催
2012年8月2日	逗子中学校出前授業「学校内の川の生き物(池子川上流)調査体験」
2012年8月19日	田越川河口「さかな観察会」渚橋で開催
2012年9月14・16日	田越川一斉清掃について、湘南ビーチFMに出演・清掃作業に協力
2012年9月18日～19日	久木中学校2年生出前授業「生きものウォッチングを楽しんでみよう」
2013年6月9日	磯(葛ヶ浜)の観察会
2013年7月20日	田越川中流「さかな観察会」延命寺親水公園で開催
2013年8月1日	逗子中学校出前授業「学校内の川の生き物(池子川上流)調査体験」
2013年8月24日	田越川河口「さかな観察会」渚橋で開催
2014年6月15日	磯(葛ヶ浜)の観察会 鎌倉ケーブルテレビ取材・放映
2014年7月19日	田越川中流「さかな観察会」池子川合流点で開催
2014年8月23日	田越川河口「さかな観察会」渚橋で開催
2015年5月17日	磯(葛ヶ浜)の観察会
2015年11月16日・12月7日	聖マリア小学校三年生出前授業「海の生きものとゴミ」(講演) 授業と海岸でのゴミ調査体験、後日体験内容のまとめ
2016年2月20日	かんきょう連続講演会 神奈川県水産技術センター 亀井正法氏 「教えて！相模湾のこと、さかなのこと」
2016年7月3日	磯(葛ヶ浜)の観察会
2016年8月20日	逗子中学校出前授業「学校内の川の生き物(池子川上流)調査体験」
2016年8月27日	田越川中流「さかな観察会」池子川合流点で開催
2016年12月11日	サードエイジ連続講座第2期「田越川の四季と鳥」

## 逗子の水辺の生きものたち

(河川・磯の市民観察会報告書)

- 発行 2017(平成29)年12月23日
- 発行者 ずしし環境会議まちなみと緑の創造部会
- 編集(執筆 資料 写真)  
儀貝高弘 大谷清治 小林宏一郎
- 資料写真提供  
出島誠一 畑井俊彦
- 部会実践メンバー  
岡山和生 大塚隆之 大塚広美 菊池尚  
鈴木幹夫 宮下英之 宗澤一美 宗澤好子
- 印刷製本 株式会社博秀工芸